

フェスティバル/トーキョー15 チケット情報

一般発売

発売日:2015年9月27日(日) 10:00

料金:2,000円~6,000円(演目ごとに異なります。)

先行割引
チケット

発売日:9月23日(水・祝)10:00 ~ 9月26日(土)19:00まで **限定4日間**

一般前売チケットの **約30%OFF** の金額でご購入いただけます。枚数限定!!

※『扉』は先行割引の対象外となります。

F/Tならではのお得なチケット(主催プログラム一般前売のみ対象)

- ペアチケット……………お二人でご観劇なら10%OFF
- 3演目セット／5演目セット…お好きな演目を3演目または5演目同時購入でお得に
- 学生チケット……………**お得な学生料金**(当日券共通。『扉』のみU-25対象料金)
- 高校生以下チケット……………高校生以下1,000円(当日券共通。『扉』のみU-25対象料金)

チケット取扱

F/Tチケットセンター

ペアチケットなどすべてのチケットを取り扱い

電話予約 03-5961-5209 12:00~19:00(9/23、9/27のみ10:00より受付)
会期中無休、10/1~10/30の期間は木・日・祝定休

オンライン予約 festival-tokyo.jp(24時間受付)

東京芸術劇場ボックスオフィス

チケットぴあ

カンフェティ

※当日券は一般前売料金+500円で各会場受付にて販売いたします。

報道関係お問合せ

フェスティバル/トーキョー実行委員会事務局

広報:担当 湯川 090-8049-7940

〒170-0001 東京都豊島区西巣鴨4-9-1 にしづがも創造舎

TEL:03-5961-5202 FAX:03-5961-5207 Mail:press@festival-tokyo.jp

本プレスリリースの文字データや、使用画像等の宣材を下記からダウンロードいただけます。

<http://bit.ly/1M4RrN4>

※画像のご利用、フェスティバルや作品に関する情報をご掲載いただける折は、

上記までご一報いただきますようお願い申し上げます。

※上記ダウンロードサイト内にない素材に関してはお問合せください。

※個別の作品に関わる取材のお申込み等もこちらで承ります。

演劇×ダンス×美術×音楽…に出会う37日間



Festival//Tokyo

PRESS RELEASE

フェスティバル/トーキョー(F/T)は、東京で開催される国際的な舞台芸術フェスティバルとして、国境、世代、ジャンルを超えて多様な価値が出会い、互いを刺激しあうことで新たな可能性を拓く場となることを目指します。

第8回目となるF/T15は、「融解する境界」をテーマとし、国内外から集結する同時代の舞台作品の上演を中心に、シンポジウム、各作品に関連した映像上映、トーク、講座など多彩なプログラムを開催します。

主催プログラムでは、日本の舞台芸術シーンを牽引する演出家たちによる、国境を越えたパートナーシップに基づく共同製作や、演劇と音楽が強く結びついた舞台作品、東日本大震災の経験を経て生みだした表現に目を向けていきます。また、昨年に続き、異なる分野で活躍するアーティストがコラボレーションする新作の製作に取り組みます。

海外からは日本初招聘となるスペインの鬼才アンジェリカ・リデルやヨーロッパの舞台芸術の中心の一つである名門・パリ市立劇場をはじめ、世界の舞台芸術シーンで大きな存在感を放つカンパニー、アーティストを招聘。また、アジア地域から1カ国を選び特集する「アジアシリーズ」の第2弾では、急速な社会変化が進むミャンマーから3組のアーティストを紹介します。

さらに、F/Tと同時期に東京近郊で上演される13作品が連携プログラムとして参加するほか、同時開催するアジア舞台芸術祭との連携を通して、東京の舞台芸術シーンを広く紹介していきます。

2015年10月31日(土) – 12月6日(日)

東京芸術劇場、あうるすぽつと、にしづがも創造舎、アサヒ・アートスクエア、
彩の国さいたま芸術劇場、池袋西口公園、豊島区 旧第十中学校ほか

festival-tokyo.jp

01 ご挨拶

02 フェスティバル/トーキョー15 融解する境界

04 『フェスティバルFUKUSHIMA!@池袋西口公園』

総合ディレクション: プロジェクトFUKUSHIMA!+山岸清之進
10月31日(土)、11月1日(日) 池袋西口公園

06 SPAC - 静岡県舞台芸術センター『真夏の夜の夢』

演出: 宮城聰、作: ウィリアム・シェイクスピア 小田島雄志訳『夏の夜の夢』より、潤色: 野田秀樹、音楽: 棚川寛子
10月31日(土)~11月3日(火・祝) にしづがも創造舎

08 ゾンビオペラ『死の舞踏』

安野太郎(コンセプト・作曲) × 渡邊未帆(ドラマトゥルク) × 危口統之(美術)
11月12日(木)~11月15日(日) にしづがも創造舎

10 地点×空間現代『ミステリヤ・ブッフ』

作: ヴラジーミル・マヤコフスキイ、演出: 三浦基、音楽: 空間現代
11月20日(金)~11月28日(土) にしづがも創造舎

12 『ブルーシート』

作・演出: 館屋法水
11月14日(土)~11月15日(日)、12月4日(金)~12月6日(日)(予定) 豊島区 旧第十中学校

14 『God Bless Baseball』

作・演出: 岡田利規
11月19日(木)~11月29日(日) あうるすぽっぽ

16 『颶風奇譚 タフギダム』

ソン・ギウン(作) × 多田淳之介(演出)
11月26日(木)~11月29日(日) 東京芸術劇場 シアターイースト

18 『地上に広がる大空(ウェンディ・シンドローム)』

作・演出・美術・衣裳: アン杰リカ・リデル(アトラ・ビリス・テアトロ)
11月21日(土)~11月23日(月・祝) 東京芸術劇場 プレイハウス

20 パリ市立劇場『扉』

作: ウジェーヌ・イヨネスコ、演出: エマニュエル・ドウマルシー=モタ
11月21日(土)~11月23日(月・祝) 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

22 ギンタースドルファー/クラーセン『LOGOBI 06』

11月26日(木)~11月29日(日) アサヒ・アートスクエア

24 ゲーテ・インスティトゥート韓国×NOLGONG『Being Faust - Enter Mephisto』

構成: ピーター・リー
11月19日(木)~11月22日(日) 東京芸術劇場 シアターイースト

26 アジアシリーズ vol.2 ミャンマー特集

『ラウンドアバウト・イン・ヤンゴン』
構成・出演: ティーモーナイン、演出・出演: ニヤンリンテツ、音楽・出演: ターソー
11月13日(金)~11月15日(日) アサヒ・アートスクエア

28 ■シンポジウム

■トーク
■展示

29 F/Tサポーター

30 同時開催『アジア舞台芸術祭』

32 連携プログラム

36 フェスティバル/トーキョー実行委員会

37 開催概要



目次

ご挨拶

2020年の東京オリンピック・パラリンピック大会の開催を控え、世界中から東京への注目度が高まっている今、豊島区は文化によるまちづくりの集大成として誰もが安全・安心で魅力と活力にあふれた国際アート・カルチャー都市を目指しています。

フェスティバル/トーキョーは日本最大級の国際舞台芸術祭です。過去7回の開催を通じ、新たな文化創造を世界へ発信してきました。

8回目となる今回のF/T15では国境、世代、ジャンルを超えた作品を多数上演いたします。また、昨年度に引き続き、地元の商店街、企業、団体の協力をいただきながらプロジェクトFUKUSHIMA!によるオープニングイベントを実施するなど、まちを挙げてのフェスティバルとなっています。

世界的演劇祭フェスティバル/トーキョーを中心据えて演劇のまち池袋を大きくアピールし、誰もが主役の劇場都市の実現に向け取り組んでまいります。どうぞご期待ください。

最後に、開催にあたり、実行委員長荻田伍様をはじめ、関係者の皆様のご尽力に深く敬意を表しますとともに、衷心より御礼申し上げ、あいさつといたします。

フェスティバル/トーキョー実行委員長
豊島区長 高野之夫

2009年にスタートしたフェスティバル/トーキョーは、東京、日本、そしてアジアを代表する国際的な舞台芸術祭として池袋エリアを中心に開催され、これまで165以上の作品を上演し、合わせて36万人を超えるお客様にご来場いただきました。

第8回となるF/T15では、ヨーロッパの主要な劇場・フェスティバルで活躍するアーティストの来日公演に加え、国内・海外の様々なアーティストの作品を招聘いたします。

2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催に向け、この国際フェスティバルの開催を通じて、東京から新しい価値を世界に向けて創造・発信するとともに、国内外各地のフェスティバルや劇場、文化機関とのネットワークをさらに強め、地域や国境を越えた文化交流に貢献することを目指し邁進して参ります。

開催にあたり、文化庁、国際交流基金アジアセンター、ご協賛企業ならびに地域の各団体をはじめ、多大なご支援・ご協力ををお寄せ下さっている皆様にこの場をお借りして改めてお礼申し上げます。

フェスティバル/トーキョー実行委員長
荻田 伍

フェスティバル/トーキョーは、世界的な文化創造都市を実現するために、東京都と公益財団法人東京都歴史文化財団が自治体および芸術団体やNPO等と協力して、都内各地域で実施するプロジェクトの一つです。

2009年2月に誕生して国内外から時代を切り取る先鋭的なプログラムが集まり、新しい芸術文化を創造してきた東京における国際舞台芸術祭として定着し、今年は8回目となります。また、舞台芸術を通じて人と人の出会いを作り出してきた「アジア舞台芸術祭」を同時開催します。

本年3月に東京都は、2025年までを見据えた「東京文化ビジョン」を発表しました。東京の芸術文化は、現代と伝統が共存・融合する独自性・多様性に支えられ、過去・現在・未来を示す文化が互いに影響し合い、その価値を高めていることから、東京の多様で奥の深い芸術文化を顕現した大規模フェスティバルを段階的に展開していくこととしています。

東京都の政策実現のために、フェスティバル/トーキョーが築いてきた実績が評価されて、さらに発展する契機とします。ご期待ください。

アーツカウンシル東京(公益財団法人東京都歴史文化財団)機構長
三好勝則

ディレクターという職能が想像していたよりは早く定着し、あらためてその資質について問い合わせるに違いない。そもそも我々の社会やその教育は、ディレクターという職能を想定していなかったし、どのようにすればディレクターが育つかを考えられてはいない。とはいえ、ディレクターズコミッティは常にそれを考え、議論し、すこしでも論議を先に進めることに最大限の努力を払ってきた。今回からディレクターの任命はフェスティバル/トーキョー実行委員会の議決事項としたことも一つの変化である。今後も問題を提起し、解決に臨みたい。

世界は大きな変化の只中にいるような気がする。フェスティバル/トーキョーは、世界に何かを付け加えることができているのだろうか。変化はアート界の中でも顕著に現れてきている。アーティストと言おうとアクトヴィストと言おうと、社会を見つめ、地域を掘り下げることから世界に広がる創造的なことを展開するフェスティバルにしたいものだ。

フェスティバル/トーキョー15 ディレクターズコミッティ代表
市村作知雄

フェスティバル/トーキョー15 融解する境界

■境界をつくる人間

今年のフェスティバル/トーキョー(F/T)は、「融解する境界」をテーマに掲げる。ここで言う境界とは何か。それは、このフェスティバルに参加する一人一人に委ねられるところだが、少なくとも、国境やアートのジャンルにおける境界、作品創作上の役割や、創る側と観る側を区別する線引きを含んでいる。

いわゆるグローバリゼーションは、現在も加速度的に進行し、私たちはその渦中で日々を過ごしている。とはいえ、国民国家に代表される既存の枠組みは、政治、経済、そして文化においても、いまだ強固にその影響力を保っている。境界で囲われた領域の内部に人や資源や情報を囲い込み、それをコントロールしようとする力は依然として強大だ。無論、アートもこれらの影響のただ中でかろうじて存在している。

既存の枠組みを消し去ろうとする力と維持しようとする力が同時に働く中、ある境界は融解し、ある境界はその強度を高める。あるいは、新しい境界が浮かび上がり、私たちを取り囲む境界は消え去ることはない。それは、境界を引く事が、政治や経済の構造といったマクロなレベルでも、個人の生活や意識といったミクロなレベルでも、そしてまた、生物としても、人間が生存していくために必要な営為であることに由来する。境界を必要とするのも、それを消し去ろうとするのも人間なのだろう。

■多様性のほころびと、アートの力

望むと望まざるとに閑わらず様々な境界に囲まれた私たちが、その網の目の中で境界そのものを問い合わせる事は簡単ではない。ましてや、境界の向こう側にいる他者を想像することはさらに困難だ。

その困難になんとか向かい合おうとする時、他者の持つ価値観や文化を互いに尊重し、多様性を認めることは、もはや一つの前提であるだろう。しかし、多様性という言葉でもって思考停止や自己規制に陥ることで偏見や無関心が醸成され、社会の内部に存在する様々な境界がさらに強化される危険性を考えないわけには

いかない。国境を瞬時に越えて届くマスメディアの報道やSNSを介したやりとりもまた、様々な境界を軽々と越える一方で、境界そのものを強化する力ともなる。

多様性が認められ、報道と表現の自由が許された成熟した社会とされる先進諸国においても、国家、人種、宗教、所得格差といった境界が、激しい衝突や悲惨なテロ行為を生み続けている現実を、私たちは日々、見せつけられている。

このような困難の中で、張り巡らされた境界をくぐり抜け、時にはそこに孔を穿つ力がアートにはあると信じたい。いや、私たちをそのような地平へと導いてくれる力と仕掛けを持った表現がアートだと言うべきなのかもしれない。そこにこそ現代におけるアートの存在意義を見出すことができる。F/Tの使命の根底にあるものは、舞台芸術を中心に、そのようなアートとしての力を持った表現を多くの人と共有し、国籍、所属、世代を超えた対話を生むことである。

■

多くの方々の支援と尽力により今年で8回目を迎えるこの舞台芸術の祭典には、今年も国内外から多くのアーティストが参加し、多彩な作品が上演される。とりわけ、国内の作品では、演劇と音楽が融合した舞台表現と、昨年に引き続き2011年の震災の経験から生まれた表現に目を向けてみたい。また、国際フェスティバルとして、国境を越えた共同製作や海外への展開を視野に入れた新作の製作も引き続き行っていく。

昨年に続き、オープニングを飾るのはプロジェクトFUKUSHIMA!による2日間の盛大な祭りだ。多くの人々を巻き込みながら、文化の力で福島をポジティブな言葉へ変換しようという、その途方もない企てにF/Tも引き続き加わりたい。船屋法水は、東日本大震災を経験した高校生たちと共に生み出した『ブルーシート』を豊島区内の旧中学校で上演する。震災後にアーティストが高校生たちと生み出した作品は昨年のF/T14でも取り上げたが、それは時に思いがけないほどの強さで観る者の心を揺さぶる。

演劇と音楽はどちらも上演芸術であるという点で地続きだが、F/T15では両者が異なる形で不可分なまでに結びついた3つの作品を上演する。俳優が演技と演奏の両方を担うSPAC『真夏の夜の夢』は、宮城聰による演出と棚川寛子の音楽が一体化した祝祭音楽劇だ。マヤコフスキーの言葉が躍動する『ミステリヤ・ブッフ』に挑む地点と気鋭の3ピースバンド空間現代のコラボレーションでは、独特の俳優の発話とストイックなロックサウンドが切り結ぶ。そして、安野太郎・渡邊未帆・危口統の3人は、意志を持たない自動演奏楽器が奏でるゾンビ音楽によるオペラという前代未聞の創作に挑む。

今年は、注目すべき2つの日韓共同製作による新作が時期を同じくしてプログラムに並ぶ。岡田利規は野球というモチーフから両国の姿を描き、また多田淳之介はソン・ギウンと2度目のタッグを組んでシェイクスピア『テンペスト』を翻案する。岡田作品は、Asian Culture Complex-Asian Arts Theatre, Taipei Arts FestivalとF/Tとの共同製作である。

海外からも様々な作品を迎える。フランスのみならずヨーロッパにおける舞台芸術シーンの中心地の一つ、パリ市立劇場が、世界的な成功を収めた『扉』を携えて来日。全体主義に傾く社会の中でイヨネスコが生み出した不条理劇の古典的名作を、極上のエンタテインメントと評されるほどに洗練された舞台に仕上げてみせる。アヴィニョン演劇祭、ウィーン芸術週間などで大きな話題を集めたアンジェリカ・リデルの代表作『地上に広がる大空(ウェンディ・シンドローム)』の美と混沌が共存する舞台もまた、東京の観客に大きな驚きをもたらすだろう。

ドイツを拠点とする多国籍集団ギンタースドルファー/クラーセンによる『LOGOBI 06』は、異なる文化が互いに敬意を持って衝突する際のスリリングで人間的な側面を私たちに見せてくれるだろう。この作品がダンスなのか演劇なのかという問いはひとまず置いて、2人のダンサーが繰り広げるセッションを楽しんで頂きたい。韓国のクリエイティブ・ディレクター、ピーター・リーがドイツのドラマトゥルクと共同開発したユニークな

『Being Faust - Enter Mephisto』では、観客一人一人がスマートフォンを用いて参加する。この作品は、演劇とゲーム、創る側と見る側の境界を問うだろう。

昨年から開始した「アジアシリーズ」の第2弾では、急速な社会の変化と共に新たな表現が生まれつつあるミャンマーを特集。F/Tのスタッフが数度の現地リサーチを経て出会った、ヤンゴンを拠点に活躍する3組のアーティストによるインсталレーション、演劇作品、音楽を紹介する。

これらの上演作品に加えて、シンポジウムやトークなど多数の関連企画が予定されているが、毎年、準備から会期終了までの様々な現場は多くのボランティアの力で支えられている。今年から、これまで「F/Tクルー」と呼んでいたボランティアスタッフの仕組みをリニューアルし、「F/Tソポーター」としてスタートさせる。作品を観ること以外のフェスティバルへの様々な参加の仕方を提案し、ここから多くの繋がりが生まれ、広がることを目指す。ソポーターから生まれる企画もスタートするだろう。観客とスタッフの境界をまたぐ「中間者」としてのソポーターには、多くの可能性が秘められている。ぜひ多くの方々にご参加いただければ幸いである。

フェスティバル/トーキョー15
ディレクターズコミッティ一同

メインビジュアルについて



多彩な色彩を基調にした明るいイメージにより、街にあって通りゆく人々の目をひく印象的なビジュアルイメージ

アートディレクション: 氏家啓雄
(氏家プランニングオフィス)
イラスト: naomi@paris.tokyo

『フェスティバルFUKUSHIMA!@池袋西口公園』

総合ディレクション…プロジェクトFUKUSHIMA!+山岸清之進

10月31日(土)、11月1日(日)
池袋西口公園



撮影:菊池良助

**布地を繋いで、手と手を繋いで、音を紡げば、心も繋がる
福島発、未来をつくる祭りが今年も池袋にやってくる！**

秋の池袋西口公園に、あの熱気がまたやってくる！

2011年東日本大震災をきっかけに、「FUKUSHIMA」をポジティブな言葉に変えていくため始動したプロジェクトFUKUSHIMA!。昨年、F/T14のオープニングを飾った『フェスティバルFUKUSHIMA!@池袋西口公園』で、200人にのぼる一般参加者を集めた「池袋西口オーケストラ」の即興演奏、さまざまなアーティストによるライブやオリジナルの盆踊りで多くの人々を巻き込んだ、あの祭りが、今年もF/Tに登場する。

会場には全国から寄せられた布地を縫い合わせた大風呂敷が敷かれ、多彩なアーティストによるライブが行われる。さらに、大友良英が作曲、一般から池袋にまつわる言葉を集めて作詞した「池袋西口音頭」（唄は民謡歌手・木津茂里。振付は珍しいキノコ舞踊団の伊藤千枝。）にあわせて老若男女が踊り出す——。

全国各地で続けられてきたプロジェクトFUKUSHIMA!による「大風呂敷」や「盆踊り」は、地域とのつながりを生み、新たな出会いを創り出してきた。「福島発」を原動力にする彼らとF/Tのタッグが発信する、福島—池袋の文化、そのエネルギーを是非、体感してほしい。

新たな試みが生み出す、新しい繋がり

今回は本番の2日間に先駆けた活動も展開。一般から公募されたメンバーが「盆踊り隊」を結成、夏から秋にかけて豊島区内を中心とした都内の盆踊り大会へ参加する。彼らは7月開催のワークショップで振付をマスターし、地域の人々へ「池袋西口音頭」を伝授することで、一層大きな盆踊りの輪を作り出す。

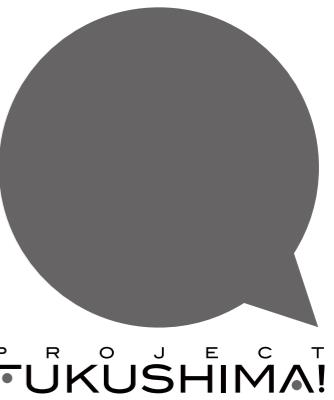
さらに、盆踊り隊が着用する特製はつびを作る「はつび作り隊」も結成。新たに寄せられた布地を繋ぎ、一人ひとりが着用する人を思い描きながら、さまざまな色とデザインのはつびを作った。また、昨年池袋で使用した大風呂敷は、「大風呂敷修復隊」による修復を経て今年も会場に敷かれる。昨年は大風呂敷を作ることで多くの出会いを生み出したが、今年は盆踊り隊、はつび作り隊、大風呂敷修復隊など、いっそう多様な活動が多くの人々を繋ぐ。

アーティスト・プロフィール

プロジェクトFUKUSHIMA! Project FUKUSHIMA!

2011年3月11日の東日本大震災後、福島の現在と未来を世界に発信することを目的に、音楽家・遠藤ミチロウ、大友良英と詩人・和合亮一を代表とし、福島県内外の有志によって結成。毎年8月、福島で『フェスティバルFUKUSHIMA!』を開催するほか、愛知、多治見、札幌など全国でも同じくフェスティバルを展開してきた。また、インターネット放送局「DOMMUNE FUKUSHIMA!」の運営など、さまざまな活動を継続的に行っている。2015年より山岸清之進が新代表に就任。活動開始から5年目を迎えた現在も、活動に賛同するメンバーは増え続け、各地域で自主的な活動も始まっている。

プロジェクトFUKUSHIMA! 公式ホームページ <http://www.pj-fukushima.jp/>



撮影:丹野 進

山岸清之進 Seinoshin Yamagishi

プロジェクトFUKUSHIMA!代表／ディレクター

1974年福島市生まれ。高校卒業まで福島で育つ。大学・大学院でメディアアートを学び、国内外で作品を発表しながら、番組制作などメディアコンテンツの企画・制作を行う。番組出演をきっかけに交流が始まった福島育ちの音楽家・大友良英と震災直後から連絡を取り合い、プロジェクトFUKUSHIMA!の立ち上げに参加。2011年のフェスティバルがつくられる過程を「ETV特集 希望をフクシマの地から～プロジェクトFUKUSHIMA!の挑戦」としてドキュメンタリーにまとめた。以降も中心的なメンバーの1人としてプロジェクトに関わり、2015年からは代表を務める。2006年から鎌倉在住。地域の仲間とともにクリエイティブチーム「ROOT CULTURE」を立ち上げ、舞台作品の制作や、地域資源を活用した文化交流・発信拠点となる場づくりの活動も行っている。

キャスト／スタッフ

総合ディレクション	プロジェクトFUKUSHIMA!+山岸清之進
プロジェクトFUKUSHIMA!美術部	中崎 透、アサノコウタ、坂口千秋、小池晶子
プロジェクトFUKUSHIMA!事務局	富山明子、森 彰一郎、沼田夕妃
参加アーティスト	大友良英、遠藤ミチロウ、長見 順、岡地暉裕、珍しいキノコ舞踊団 ほか
音響	近藤祥昭(ゴックサウンド)
照明	株式会社レベル・ジー
電源	R.ビルメンテナンス株式会社
屋台コーディネート	オフィス田中
施工	ダスキンレントオール 新宿新都心イベントセンター
道具	torawork
運営、ステージ制作	infusiondesign
舞台監督	高野 洋
撮影	菊池良助
企画協力	前田圭蔵
「盆踊り隊」協力	あうるすぽつと(公益財団法人としま未来文化財団) すみだ川アートプロジェクト実行委員会 巣鴨地蔵通り商店街振興組合 東京大塚阿波おどり実行委員会
「はつび作り隊」協力	レンタルミシンのくーどる
制作	荒川真由子、岡崎由実子、横井貴子、喜友名織江
主催	フェスティバル/トーキョー

公演情報

会場

池袋西口公園
東京都豊島区西池袋1-8-26

公演スケジュール

10/31(土) 15:00~20:00
11/1(日) 13:00~18:00
※雨天決行、荒天中止

チケット情報

入場無料

SPAC - 静岡県舞台芸術センター『真夏の夜の夢』

演出…宮城 聰 作…ウィリアム・シェイクスピア 小田島雄志訳『夏の夜の夢』より
潤色…野田秀樹 音楽…棚川寛子

10月31日(土)～11月3日(火・祝)
にしづがも創造舎



Photo:K.Miura

富士の麓の祝祭音楽劇がF/T初登場! 老若男女、すべての人々に捧げる、新装版シェイクスピア喜劇

SPACの大ヒット作『真夏の夜の夢』がF/T15
のオープニングを賑やかに彩る

2014年、祝祭音楽劇『マハーバーラタ～ナラ王の冒険～』で、日本の現代演劇の演出家としては20年ぶりに、公式プログラムとしてアヴィニョン演劇祭に招聘されたSPAC - 静岡県舞台芸術センター芸術総監督・宮城聰。その公演の成功で、今や世界中から注目を集める存在となつた彼が、2011年の初演では「ふじのくに×せかい演劇祭2011」で最も早く完売し、2014年の再演では2か月のロングランを成し遂げた伝説的作品、祝祭音楽劇『真夏の夜の夢』を携え、F/T15のオープニングを飾る。

シェイクスピアの原作を野田秀樹が潤色・演出し1992年に初演されたこの戯曲を、宮城は「祝祭音楽劇」という新たな形式で演出し、生まれ変わらせた。劇作家・野田の詩性あふれる言語と、音楽の出会い。そこには、繰り返されるたびに異なる関係や文脈をつくりだす「言葉」と、言語以前の呼吸や鼓動、声の繰り返しを原点とする「音楽」に同時に取り組むことで、世界全体を描きたい——という宮城ならではの狙いがある。

あらゆる世代に贈る、耳に楽しく、目に面白い 祝祭劇

原作で恋物語を繰り広げる貴族たちは日本の料亭で働く若者たちに、彼らが迷いこむアテネの森は富士の麓の「知られざる森」に置き換えられるなど、物語はより身近で親しみやすいものとなっている。またその一方で、人の深層心理を利用する悪魔・メフィストフェレスを登場させるなど、原作にはない苦味を加えた展開は、多くの現代人の心に迫るだろう。

もちろん、「祝祭音楽劇」だけに、全編にわたり俳優が生演奏する「音楽」も、この作品の重要な要素。パーカッションを軸にした音楽は、にしづがも創造舎でのクリエーション経験もあり、小学校でのワークショップでも活躍する棚川寛子が担当。身体や声、舞台装置とも相まつた、唯一無二の空間が俳優たちとの共同作業で作り出される。

さらに、妖精たちが生きる「知られざる森」のセットや登場人物たちの衣裳にも注目。文字の印刷された新聞紙を駆使して作られた舞台は、台詞に仕込まれた言葉遊びとも重なりあって、この作品における「言葉」の存在感、その豊かさを視覚の面でも表現する。

目にも耳にも刺激的、野田戯曲のリリカルな魅力と宮城演出の大きな世界観が出会う本作は、SPACでは中高生鑑賞事業公演でもあり、東京でも10代から家族連れ、コアな演劇ファンまで、幅広い観客層に、改めて演劇的魅力をアピールするものとなるはずだ。

アーティスト・プロフィール

宮城 聰 Satoshi Miyagi



©新 良太

演出家、SPAC - 静岡県舞台芸術センター芸術総監督

1959年東京生まれ。演出家。SPAC - 静岡県舞台芸術センター芸術総監督。東京大学で小田島雄志・渡辺守章・日高八郎各師から演劇論を学び、1990年ク・ナウカ旗揚げ。国際的な公演活動を展開し、同時代的テキスト解釈とアジア演劇の身体技法や様式性を融合させた演出は国内外から高い評価を得ている。2007年4月SPAC芸術総監督に就任。自作の上演と並行して世界各地から現代社会を鋭く切り取った作品を次々と招聘、また、静岡の青少年に向けた新たな事業を展開し、「世界を見る窓」としての劇場づくりに力を注いでいる。2014年7月アヴィニョン演劇祭から招聘されブルボン石切場にて『マハーバーラタ～ナラ王の冒険～』を上演し絶賛された。その他の代表作に『王女メティア』『ペール・ギュント』など。2004年第3回朝日舞台芸術賞受賞。2005年第2回アサヒビール芸術賞受賞。

SPAC - 静岡県舞台芸術センター

静岡県舞台芸術センター(Shizuoka Performing Arts Center : SPAC)は、専用の劇場や稽古場を拠点として、俳優、舞台技術・制作スタッフが活動を行う日本で初めての公立文化事業集団である。舞台芸術作品の創造と上演とともに、優れた舞台芸術の紹介や舞台芸術家の育成を事業目的として活動している。1997年から初代芸術総監督 鈴木忠志のもとで本格的な活動を開始。2007年より宮城聰が芸術総監督に就任し、事業をさらに発展させている。より多彩な舞台芸術作品の創造とともに、「ふじのくに×せかい演劇祭」の開催、中高生鑑賞事業や人材育成事業、海外の演劇祭での公演、地域へのアウトリーチ活動など、様々な活動に取り組んでいる。

キャスト／スタッフ

演出…………… 宮城 聰
作…………… ウィリアム・シェイクスピア
…………… 小田島雄志訳『夏の夜の夢』より
潤色…………… 野田秀樹
音楽…………… 棚川寛子
出演…………… 赤松直美、池田真紀子、石井萌水、
泉 陽二、大高浩一、春日井一平、
加藤幸夫、河村若菜、木内琴子、
貴島 豪、小長谷勝彦、桜内結う、
佐藤ゆず、柴田あさみ、鈴木真理子、
大道無門優也、たきいみき、武石守正、
本多麻紀、牧山祐大、森山冬子、
吉見 亮、若宮羊市、渡辺敬彦 (SPAC)
照明デザイン…………… 岩品武顕 ((公財)埼玉県芸術文化振興財団)
舞台美術デザイン…… 深沢 襟 (SPAC)
衣裳デザイン…………… 駒井友美子 (SPAC)
音響デザイン…………… 加藤久直 (SPAC)
技術監督…………… 村松厚志 (SPAC)
制作…………… 仲村悠希、板垣朱音、丹治 陽 (SPAC)、
三竿文乃、河合千佳 (フェスティバルトーキョー)
製作…………… SPAC - 静岡県舞台芸術センター
協力…………… NODA MAP
主催…………… フェスティバルトーキョー

公演情報

会場

にしづがも創造舎
東京都豊島区西巣鴨4-9-1

公演スケジュール

10/31(土) 19:00
11/1(日) 15:00★+バックステージツアー
11/2(月) 19:00
11/3(火・祝) 13:00／18:00★
★ポスト・パフォーマンストークあり

上演時間

2時間5分(休憩なし)

チケット情報

一般前売

自由席(整理番号つき) 4,000円(当日+500円)

ゾンビオペラ『死の舞踏』

安野太郎(コンセプト・作曲) × 渡邊未帆(ドラマトゥルク) × 危口統之(美術)

11月12日(木)～11月15日(日)
にしづがも創造舎

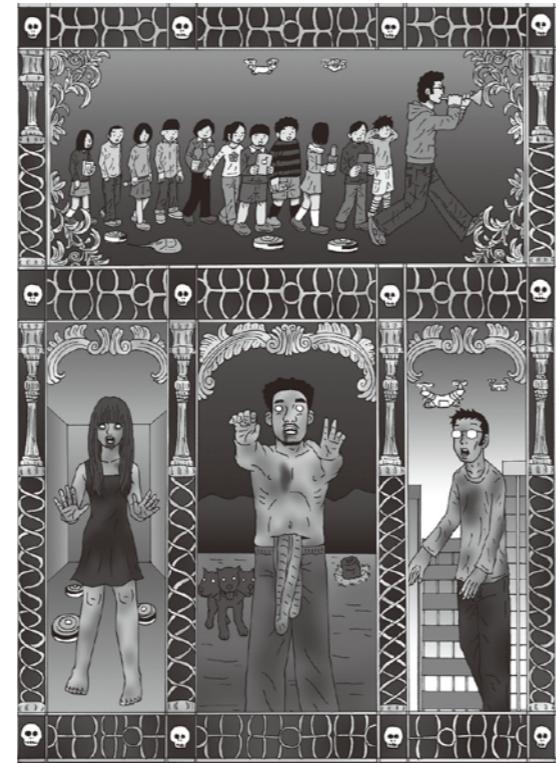


イラスト:古泉智浩

ゾンビ音楽で挑むオペラの新たな領域

ゾンビ音楽で綴るオペラ 『死の舞踏』

伝染病や戦争で多くの人々が命を落とした時代を背景に、「死の普遍性」に繋がる寓話、イメージとして、中世ヨーロッパで流行した「死の舞踏」。死神に先導され、恐怖に踊りつつ死へと趣く人々の姿は、その後もさまざまな絵画や彫刻、音楽、戯曲などでも取り上げられてきた。

今回、そのイメージをもとにオペラを創作するのは、「ゾンビ音楽」を生み出した作曲家・安野太郎。「ゾンビ音楽」とは、リコーダーやクラリネット、サックスなどの楽器にエア・コンプレッサーで空気を送り、コンピュータ制御された「指」によって自動演奏するというもの。楽器としての機能は有するが、意志を持たない演奏を続けることから、音楽の生ける屍として「ゾンビ音楽」と名付けられている。

500年以上に渡って、多くの芸術家たちにインスピレーションを与え続ける「死の舞踏」が、21世紀のゾンビ音楽と出会ったとき、そこにはどんな眺め、どんな調べが生まれるだろう。昨今、多くのアーティストが新たな表現形態を模索する「オペラ」への挑戦とも併せて注目したい。

コラボレーションで挑戦する オペラの新たな領域

この作品の創作には、作曲家・安野太郎のほかに、異なるジャンルの専門家、アーティストが参加する。「前衛音楽」の歴史的研究のみならず、クラシック音楽からアートパフォーマンスまで幅広い知識を持つ渡邊未帆は、歴史背景や上演史、演奏史、音楽理論など、さまざまな視点からオペラの骨組みを考える。また、美術を担当するのは、既存の演劇概念を崩し新たな構造を組み立てる気鋭の演劇集団「悪魔のしるし」を主宰する危口統之。単なる舞台装置の設計ではなく、そこに居合わせる人や物すべてを組み込むような空間設計に挑む。

安野、渡邊、危口3名の知識、経験、思考が折り重なり、オペラの新たな領域が拓かれる。

アーティスト・プロフィール

安野太郎 Taro Yasuno



撮影:松本和幸

渡邊未帆 Miho Watanabe



撮影:松本和幸

危口統之 Noriyuki Kiguchi



撮影:松本和幸

作曲家

1979年生まれ。日本とブラジルのハーフ。DTM(デスクトップミュージック)やエレクトロサウンドとしてのコンピューター・ミュージックとは異なる軸でテクノロジーと向き合う音楽を作ってきた。代表作に『音楽映画』シリーズ、『サーチエンジン』(第12回文化庁メディア芸術祭)、『ゾンビ音楽』(第17回文化庁メディア芸術祭)、ゾンビ四重奏『Quartet of the Living Dead』(第7回JFC作曲賞)、CDアレバム『デュエット・オブ・ザ・リビングデッド』『カルテット・オブ・ザ・リビングデッド』(第69回文化庁芸術祭レコード部門)等がある。現在、日本大学藝術学部非常勤講師、研究員。

音楽ドラマトゥルク

東京藝術大学大学院音楽研究科博士後期課程修了。ラジオ番組制作、雑誌や書籍の編集、執筆など。F/T14では『春の祭典』の音楽ドラマトゥルクを務めた。現在、早稲田大学非常勤講師。

悪魔のしるし主宰、演出家

1975年倉敷市生まれ。横浜国立大学工学部卒。在学中に演劇活動を開始するも卒業後ほどなくして停止、以後建設作業員として数年暮らす。2008年頃から活動再開、演劇その他を企画上演する集まり「悪魔のしるし」を組織し現在に至る。2014年度よりセゾン文化財団シニア・フェロー。主な作品に『搬入プロジェクト』、『わが父、ジャコメッティ』など。

キャスト／スタッフ

コンセプト・作曲	安野太郎
ドラマトゥルク	渡邊未帆
美術	危口統之
技術監督	寅川英司
技術監督助手	河野千鶴
舞台監督	渡部景介
音響	相川晶(有限会社サウンドウーズ)
照明	田代弘明(株式会社DOTWORKS)
美術コーディネーター	中村友美
ゾンビ制作	安野太郎、松本祐一
ゾンビアシstant	後藤天
制作	荒川真由子、十万亜紀子
特別協力	タカハ機工株式会社(ソレノイド)
主催・企画・製作	フェスティバルトーキョー

公演情報

会場

にしづがも創造舎
東京都豊島区西巣鴨4-9-1

公演スケジュール

11/12(木)	19:30
11/13(金)	19:30
11/14(土)	19:30
11/15(日)	14:30

上演時間

未定

チケット情報

一般前売

自由席(整理番号つき) 3,500円(当日+500円)

地点×空間現代『ミステリヤ・ブッフ』

作…ヴラジーミル・マヤコフスキー 演出…三浦 基 音楽…空間現代

11月20日(金)～11月28日(土)
にしづがも創造舎



『ファツツァー』Photo:Hisaki Matsumoto

地点・三浦基が、空間現代と共に描き出す ロシア・アヴァンギャルドのめくるめく祝祭劇

三浦基が挑む祝祭(=革命)と笑いの演劇

「残酷演劇」の提唱者アントナン・アルトーの手紙と向き合った『一ところでアルトーさん』(F/T10)、エルフリーデ・イエリネクが3.11に応答して執筆した『光のない』(F/T12)など、難解とされるテキストに次々と挑んできた演出家・三浦基とその劇団、地点。大胆な空間づくりと肉感をともなった鮮やかな演技で、これまでのF/Tでも話題をさらってきた彼らが、オルタナティブ・ロック・バンド、空間現代とのコラボレーションで、ロシア・アヴァンギャルドをけん引した詩人、ヴラジーミル・マヤコフスキーの祝祭劇『ミステリヤ・ブッフ』に挑む。

1917年のロシア革命を背景に、アジテーションと詩で紡がれる『ミステリヤ・ブッフ』。「ノアの方舟」をモチーフに、聖者を労働者に置き換え、彼らが地獄や天国を巡り、約束の地へたどりつくまでをつづるこの戯曲には、社会的な制約やヒエラルキーを越えて新たな世界を創出しようとするエネルギーがこめられている。1918年にメイエルホリドによって初演された戯曲だが、その後の社会においては現実味が希薄であつたことなどから、特にマヤコフスキーの死後は本国ロシアをはじめ上演される機会は多くない。しかし三浦はこの作品のモチーフの豊かさ、ユーモア、詩人の躍動する言葉の力によって新しい作品が生まれると直感したという。

この戯曲は祝祭劇であると同時に笑劇(ファルス)で

もある。戯画化された登場人物たちはどこか素朴で微笑ましく、彼らの言動の随所に笑いが散りばめられている。『地点語』とも呼ばれる独特の発語にも表れるように、言葉を徹底的に解体し、再構築しながら、その多様性を引き出す三浦の演出。こうした言葉に対するストイックさが、初めて取り組む笑劇に、どのように表れるのかが見どころだ。

地点×空間現代——待望の再会

今回、地点とコラボレーションを行うのは気鋭のスリーピースバンド、空間現代。変拍子や変則的展開の多用による特殊な楽曲構成を特徴とし、生演奏で音飛びや異なる曲を用いたコラージュを試みるなどの斬新なアイデアも光る、注目のロックバンドだ。音楽だけでなくダンスや演劇をはじめとするさまざまなジャンルのアーティストとのコラボレーションにも積極的に取り組んでおり、地点とは2013年アトリエ「アンダースロー」(京都)で初演されたブレヒト作『ファツツァー』で初タッグを組んだ。

本作は、音楽の時間と演劇の時間が拮抗し、侵食、分解しあうスリリングで革新的な作品として高い評価を受けた『ファツツァー』に続く待望のコラボレーション。アトリエ公演とは違った広い会場で、ぶつかり合いつつ、生み出される「祝祭」の時間、そのエネルギーは必見だ。

アーティスト・プロフィール

地点 CHITEN

演出家・三浦基が代表をつとめる。多様なテキストを用いて、言葉や身体、音楽、時間などさまざまな要素が重層的に関係する演劇独自の表現を生み出すために活動している。2006年『るつぼ』でカイロ国際実験演劇祭ベスト・セノグラフィー賞を受賞。2010年にはチエーホフ2本立て作品をモスクワ・メイエルホリドセンターで上演、2012年にはロンドン・グローブ座からの招聘で初のシェイクスピア作品を成功させるなど、海外でも注目を集め。2013年、本拠地・京都にアトリエ「アンダースロー」をオープン。近年の主な作品にチエーホフ『三人姉妹』、イエリネク『光のない』、ドストエフスキイ『悪霊』、ブレヒト『ファツツァー』など。

三浦 基 Moto Miura

演出家、地点代表

1973年生まれ。1999年より2年間、文化庁派遣芸術家在外研修員としてパリに滞在する。2001年帰国、「地点」の活動を本格化。2005年、京都へ拠点を移す。2007年よりチエーホフ四大戯曲をすべて舞台化する〈地点によるチエーホフ四大戯曲連続上演〉に取り組み、第三作『桜の園』にて文化庁芸術新人賞受賞。ほか2010年度京都府文化賞奨励賞受賞、2011年度京都市芸術新人賞など受賞多数。著書に『おもしろければOKか？現代演劇考』。



©Hisaki Matsumoto

空間現代 kukangendai

2006年、野口順哉(gt.vo)古谷野慶輔(ba)山田英晶(dr)の3人により結成。編集・複製・反復・エラー的な発想から生まれた楽曲を、スリーピースバンドの形態で演奏。ねじれ、負荷がもたらすユーモラスかつストイックなライブパフォーマンスを特徴とする。近年では演奏における一つの試みとして、並走する複数のグルーヴ／曲を行き来しながらも、ライブに流れる時間全体が一つのリズムとして立ち現れてくる様なライブ形態の構築と実践に取り組んでいる。東京でのライブを活動の中心としながらもECD／鰐屋法水／大橋可也＆ダンサーズなど先鋭的なアーティスト達とのジャンルを超えたコラボレーションも積極的に行っている。地点とは『ファツツァー』(2013年)以来、二度目の共同制作となる。

<http://kukangendai.com/>



©Yohei Takeuchi

キャスト／スタッフ

作……………ヴラジーミル・マヤコフスキー
演出……………三浦 基
音楽……………空間現代
出演……………安部聰子、石田 大、小河原康二、
 窪田史恵、河野早紀、小林洋平
美術……………杉山 至
衣装……………堂本敦子
舞台監督……………足立充章
照明……………藤原康弘
音響……………西川文章
制作……………小森あや、田嶋結菜(地点)、
 三竿文乃、喜友名織江
 (フェスティバル/トーキョー)
企画・製作……………地点
共同製作・主催……………フェスティバル/トーキョー

公演情報

会場

にしづがも創造舎
東京都豊島区西巣鴨4-9-1

公演スケジュール

11/20(金)	19:30	11/25(水)	19:30
11/21(土)	19:30	11/26(木)	19:30
11/22(日)	19:30	11/27(金)	19:30
11/23(月・祝)	19:30	11/28(土)	19:30
11/24(火)	休演日		

上演時間

1時間30分(休憩なし・予定)

チケット情報

一般前売

自由席(整理番号つき) 4,000円(当日+500円)

『ブルーシート』

作・演出…飴屋法水

11月14日(土)～11月15日(日)

12月4日(金)～12月6日(日)(予定)

豊島区 旧第十中学校



『ブルーシート』(2013年)会場:福島県立いわき総合高等学校 写真:奥秋圭

飴屋法水と10人の高校生が、不在の11人目と共に紡ぎだした演劇。 いわき総合高等学校の授業から生まれた『ブルーシート』、待望の再演!

高校の授業、震災の経験と風景から生まれた 演劇作品

F/Tに過去4回参加し数々の名作を送り出してきた飴屋法水が、2013年、福島県立いわき総合高等学校の生徒と共に上演した『ブルーシート』。今秋、同校で行われる再演に続き、F/T15において待望の東京での再演を行う。

いわき総合高等学校では、演劇の授業の1年間のまとめとして、プロの演出家を招聘して作品制作が行われている。その発表公演として『ブルーシート』が上演されたのはわずか2日間・2ステージだったが、第58回岸田國士戯曲賞を受賞するなど大きな反響を呼び、その再演が待ち望まれていた。

2011年の震災と原発事故によって、福島第一原子力発電所から50km圏内にあるいわき市も被災し、そこに生きる生徒たちの暮らしが大きく変化した。初演が行われた2013年当時、いわき総合高等学校では仮設校舎での授業を余儀なくされ、校舎裏の崖は崩落したままだった。それらが目に入るグラウンドで、演劇の授業を選択した10人の高校生と飴屋が共に作り上げた『ブルーシート』

は、まさに震災の経験と風景から生み出された作品だ。

この作品で観客は、眼前に広がる風景と、10人の生者と不在の11人目に出会う。その言葉や存在は、人間の生と死、そして、認めるしかない不条理な現実を前になお生きる希望を深く問いかける。

初演から2年。いわき(福島)と豊島(東京)を 繋ぐ、2015年の『ブルーシート』

今回の再演では、初演に出演した元高校生の半数以上が参加。また、新たな出演者を迎えて上演される。いわき総合高等学校での再演に続く、東京公演の会場となるのは、2006年に閉校となった豊島区の元中学校のグラウンドだ。

これまで、飴屋は劇場作品だけでなく、野外劇や観客が自らの足で回るツアー形式など様々な形態の作品を手がけてきた。そのいずれも、その時・その場所でしか鑑賞・体験できないもので、この『ブルーシート』も例外ではない。初演から流れた2年以上の月日、そして、いわきと豊島という2つの場所の距離をも含み込んだ、2015年の『ブルーシート』に期待が高まる。

アーティスト・プロフィール

飴屋法水 Norimizu Ameya

演出家、美術家

1961年生まれ。唐十郎主宰の状況劇場を経て、1984年「東京グランギニヨル」を、1987年「M.M.M」を結成し機械と肉体の融合を図る特異な演劇活動を展開。90年代は活動領域を美術へと移行するも、1995年のヴェネチア・ビエンナーレ参加後、作家活動を停止。同年「動物堂」を開店し、動物の飼育・販売を始める。2005年「パンクリアント」展で美術活動を、2007年には演劇活動を再開。F/Tでは2009年『転校生』、『4.48 サイコシス』、2010年『わたしのすがた』、2011年『じめん』を手掛ける。2012年には小説家・朝吹真理子らと共に朝から夕暮れまで国東半島をバスで巡るアートツアー『いりくちでくち』を、2013年には福島県立いわき総合高等学校の発表公演として制作された作品『ブルーシート』で第58回岸田國士戯曲賞を受賞。2014年には「グランギニヨル未来」を結成し、実際にあった飛行機事故をもとにした公演を行った。また、東日本大震災から4年たった2015年3月11日から東京電力福島第一原子力発電所周辺の帰還困難地域でスタートした展覧会「Don't Follow The Wind.」に作品を設置している。



キャスト／スタッフ

作・演出…飴屋法水
演出助手…西島亜紀
美術・音響…飴屋法水
技術監督…寅川英司
舞台監督…鈴木康郎
音響コーディネート…相川晶(有限会社サウンドウイーズ)
制作…中村茜、奥野将徳(precog)、
松宮俊文、小島寛大(フェスティバルトーキョー)
主催…フェスティバルトーキョー
協力…福島県立いわき総合高等学校

公演情報

会場

豊島区 旧第十中学校 グラウンド
東京都豊島区千早4-8-19

公演スケジュール(予定)

11/14(土) 11:00／14:30
11/15(日) 11:00／14:30
12/4(金) 14:30
12/5(土) 11:00／14:30
12/6(日) 11:00

※雨天決行・荒天中止

上演時間

1時間30分(休憩なし・予定)

チケット情報

一般前売

自由席(整理番号つき) 3,500円(当日+500円)

『God Bless Baseball』

作・演出…岡田利規

11月19日(木)～11月29日(日)

あうるすぼつ

「野球」を通してのぞむ、 岡田利規初の日韓共同製作

「野球」が浮き彫りにする日・韓・米の「過去」と「今」

自由かつ繊細な言語、身体感覚で、現代日本に生きる人々の意識を切り取り、国内外を問わず精力的に活動する作家・演出家の岡田利規。本作は、その岡田が、今秋オープン予定の文化交流拠点・Asian Culture Complex-Asian Arts Theatre(韓国・光州)のオープニングプログラムとして依頼を受け手がける、日韓共同製作作品である。

今回、2国間をつなぐモチーフとして選ばれたのは「野球」。アメリカの国民的スポーツで、日本でも韓国でもポピュラーな野球を通じて、日本人と韓国人、それぞれの生活の中に存在する「アメリカ」が描き出される。その試みは改めて、日本と韓国、そしてアメリカの歴史と現在を浮かび上がらせ、未来を見つめ直すものとなるだろう。

岡田が魅せる新たな日韓コラボレーション!

本作で初めて海外の俳優を交えた創作に挑む岡田。主宰するエルフィッシュのメンバーとは異なる身体をもった出演者をあえて揃え、それがバラバラであることの面白さを追求する。また劇中では、日本のエピソードを韓国人俳優が演じ、韓国のエピソードを日本人が演じるため、観客は自分の知らないことを自分の分かる言葉で聞く/自分の知っている出来事を自分の知らない言葉で聞く(内容は字幕で理解)こととなる。こうした仕掛けは、自國の文化を客観的に捉えるだけでなく、他国の登場人物を自分に近い存在として感じさせ、国同士の新たな関係を提示していく。また、美術には鑑賞者自身への問い合わせを多く含む作品で、日本のみならず海外でも高く評価されている現代美術家・高嶺格を迎える。

9月の光州での世界初演の後は、F/T15で日本初演、2016年にはアメリカツアーや台湾公演も予定されている本作。日本、韓国、そしてアメリカという3つの当事国での上演も、本作の意義をいつそう深めるものとなるはずだ。



©岡田利規

●演出家コメント

日本には一八七三年、朝鮮半島には一九〇四年に伝わったとされている野球。以来一世紀以上経ちこのスポーツは、このふたつの国に完全に定着し、そこに生きる人びとに、その社会に、深くかかわっています。そんな野球にまつわるさまざまなシーンをつみかさねて、作品は進行します。野球のルールがあまりわかつてない女子たち。子供時代の少年時代のトラウマで野球が嫌いになってしまった男性。なぜかそんな彼と結婚してしまった野球好きの女性。イチロー(のにせもの?)などなどが登場。野球にまつわる個人の、あるいは国民的な記憶。メジャーリーグで活躍する韓国人および日本人の選手たちのエピソードなどが描かれます。

やがてこの物語は、アメリカという大きな存在に直面することを余儀なくされるでしょう。わたしたちふたつの国どちらもに大きな影響を与えてきた国。いまもわたしたちにその影響力を行使し続けている国。わたしたちの「上」にいる、わたしたちの「背後」にいる、わたしたちの「中」にある、わたしたちと「共」にある、アメリカ。この大きな影響力と、現状のそれとは違う関係を結ぶことはできないものでしようか?

アーティスト・プロフィール

岡田利規 Toshiki Okada

演劇作家、小説家、エルフィッシュ主宰

1973年横浜生まれ。1997年エルフィッシュを結成。2005年『三月の5日間』で第49回岸田國士戯曲賞を受賞。同年7月『クーラー』で『TOYOTA CHOREOGRAPHY AWARD 2005』次代を担う振付家の発掘一最終選考会に出場。2007年デビュー小説集『わたしたちに許された特別な時間の終わり』を発表し、翌年第2回大江健三郎賞受賞。2012年より、岸田國士戯曲賞の審査員を務める。2013年には初の演劇論集『逆行 変形していくための演劇論』を刊行している。クンステン・フェスティバル・デザール2007(ブリュッセル/ベルギー)にてエルフィッシュ『三月の5日間』が初めての国外進出を果たして以降、その作品は、アジア、欧州、北米にわたる計70都市で上演されている。



©Nobutaka Sato

キャスト/スタッフ

作・演出	岡田利規
翻訳	イ・ホンイ
出演	イ・ウンジエ、捩子びじん、 ウイ・ソンヒ、野津あおい
舞台美術	高嶺 格
衣裳	藤谷香子(FAIFAI)
ドラマトゥルク	金山寿甲(東葛スポーツ)、 イ・ホンイ
舞台監督	鈴木康郎、山下 翼、湯山千景
照明	木藤 歩
音響	堤田祐史(WHITELIGHT)
制作	中村 茜、黄木多美子、 ケティング菜々、 兵藤茉衣、河村美帆(プリコグ)、 岡崎由実子、十万亜紀子 (フェスティバル/トキヨ)
製作	エルフィッシュ、プリコグ
国際共同製作	Asian Culture Complex - Asian Arts Theatre、 フェスティバル/トキヨ、 Taipei Arts Festival
	Asian Culture Complex - Asian Arts Theatre 委嘱作品
リサーチ・ワークショップサポート	Doosan Art Center
協力	城崎国際アートセンター、 急な坂スタジオ、サンブル
主催	フェスティバル/トキヨ

公演情報

会場

あうるすぼつ
東京都豊島区東池袋4-5-2 ライズアリーナビル2F・3F

公演スケジュール

11/19(木)	19:30
11/20(金)	19:30
11/21(土)	17:00★
11/22(日)	14:00
11/23(月・祝)	19:30
11/24(火)	19:30
11/25(水)	19:30
11/26(木)	15:00
11/27(金)	19:30
11/28(土)	14:00
11/29(日)	14:00

★ポスト・パフォーマンストークあり

上演時間

1時間20分(休憩なし・予定)

上演言語

日本語・韓国語上演(日本語、韓国語、英語字幕あり)

チケット情報

一般前売

全席指定 4,500円(当日+500円)

たいふう 『颶風奇譚 タフギダム』

ソン・ギウン(作) × 多田淳之介(演出)

11月26日(木)~11月29日(日)

東京芸術劇場 シアターイースト



『가모에 카르메기』 ©Doosan Art Center

脚本家ソン・ギウン×演出家多田淳之介

『가모에 カルメギ』の名コンビが新解釈で描き出すテンペスト

日韓演劇界をリードする

脚本家ソン・ギウン×演出家多田淳之介

ラディカルにしてポップかつ緻密な演出で、古典からパフォーマンス性の高い自作まで、幅広い作品を手がける多田淳之介。平田オリザや野田秀樹を始めとする日本の劇作家との交流や合作に深くかかわってきた「第12言語演劇スタジオ」主宰の劇作家・演出家、ソン・ギウン。2008年の韓国アジア演出家展『ロミオとジュリエット』での多田と韓国人俳優との共同作業をきっかけに交流を続け、2013年には初めて多田がソンの戯曲を演出した『가모에 カルメギ』で韓国で最も歴史と権威のある「第50回東亜演劇賞」(作品賞、演出賞、舞台美術・技術賞の3部門)を受賞した名コンビが、待望の新作を発表する。

チエホフの『かもめ』を日本統治時代の朝鮮の物語に置きかえた『가모에 カルメギ』につづき、ソンが題材にするのはシェイクスピアの『テンペスト』。和解と再生をテーマにしたシェイクスピア最晩年の傑作を下敷き

に日韓の文化と歴史が織り成す悲喜劇が新たに生み出される。

シェイクスピアを通して見出される 両国の歴史と現在

富士見市民文化会館キラリ☆ふじみの呼びかけにより始まった、第12言語演劇スタジオ、南山芸術センター(ソウル)、安山文化芸術の殿堂(安山市)の日韓共同製作となる本作。両国のスタッフ・俳優はおよそ半数ずつ。クリエーションは日本と韓国を行き来しながら行なわれ、2015年10月に安山で初日の幕を開けた後は、南山、東京、富士見の計4都市で上演される。

外国人としては初めて演出賞を受賞した東亜演劇賞の授賞式で多田は、『가모에 カルメギ』を「歴史や文化そして芸術をとりまく人々の姿を通じて、人間とは何か、そして現在生きている私たちについて観客それぞれが問い合わせを見つける作品」と語った。今、ふたたび、二つの国の人々と文化に向かい、新たに紡ぎ出される舞台に、私たちはどんな問い合わせを見出しだろう。

●あらすじ

時は20世紀初頭。國を追われた朝鮮の老王族イ・スンは、南シナ海に浮かぶ小島で國の再建を夢見ながら暮らしている。ある日、自分を追いやった勢力の一人、甥のイ・ミョンと日本の政治家や軍人の一行が船で近くを通りかかると知ったイ・スンは、島に棲む空気の精に命じて颶風を巻き起し、一行を自分のもとへとおびき寄せる。ところが、自らの秘術で割りだす幻影の劇で彼らを懲らしめるうちに、事態は思わぬ方向に進みだし、やがて彼は自分が歴史の表舞台から退場する日が迫っていることを知る…。

アーティスト・プロフィール

ソン・ギウン Kiwoong Sung

劇作家、演出家、第12言語演劇スタジオ主宰

1974年生まれ。2006年から本格的に劇作、演出活動を開始。慣習的な感情表現から脱皮した繊細で緻密な作品作りで注目を集める。いわゆる植民地支配下のソウルを微視的に描く一連の作品や平田オリザの「科学」シリーズの翻訳・演出作品などを発表。大韓民国演劇大賞優秀作品賞、ドゥサン・ヨンガん芸術賞(公演芸術部門)、今日の若者芸術家賞(演劇部門)などを受賞。1999年に交換留学生として来日して日本語を学んだことをきっかけに、平田オリザ、野田秀樹、多田淳之介など、日韓現代演劇の交流や共同制作、日本の現代戯曲の翻訳にも携わるようになった。多田淳之介演出の『가모에 カルメギ』(2013)の脚本では、アントン・チエホフ原作の『かもめ』を1930年代の朝鮮を舞台にした2カ国語(日本語と朝鮮語)が混ざり合う戯曲に翻案し、近作『新・冒険王』(2015)では、平田オリザとの共同脚本・演出を務めた。



©Doosan Art Center

多田淳之介 Junnosuke Tada

演出家、俳優、富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ芸術監督、東京デスロック主宰

1976年生まれ、千葉県柏市出身。2010年4月より富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ芸術監督に就任。俳優の身体、観客、劇場空間を含めた、現前=現象にフォーカスした演出を特徴とし、古典から現代劇、パフォーマンス作品まで幅広く手がける。「演劇LOVE」を公言し、地域、教育機関でのアウトリーチ活動も積極的に行い、韓国、フランスでの公演、共同製作など国内外問わず活動する。俳優としても他劇団への客演や、映画、TVドラマにも出演。ソン・ギウンのプロデュース日韓共同製作として『재/생(再/生 日韓ver.)』(2011)、『세 사람 있어!(3人いる!)』(2012)等を演出。2013年、日韓共同製作作品『가모에 カルメギ』で、韓国の演劇賞「第50回東亜演劇賞」を受賞。



キャスト/スタッフ

作	ソン・ギウン
演出	多田淳之介
出演	チャン・ドンファン、パク・サンジョン、チョン・スジ、佐山和泉、小田 豊、永井秀樹、山崎皓司、大石将弘、夏目慎也、ペク・ジョンスン、マ・ドウヨン、チョ・アラ、伊東歌織
美術	島 次郎
舞台監督	ク・ボングアン
照明	岩城 保
音楽・音響	チョン・ヘス
ドラマトゥルク	マ・ジョンファ、チョ・マンス(南山芸術センター)
演出協力	ミン・セロム
演出助手	チョン・ヒヨン
翻訳	石川樹里
通訳・制作アシスタント	キム・ジョンミン
美術コーディネーター・小道具	ユ・ヨンボン
衣装	キム・ジョン
メイク	チョン・キヨンソク
プロデューサー	コ・ジユヨン、松井憲太郎(富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ)
制作	矢野哲史(富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ)

公演情報

会場

東京芸術劇場 シアターイースト
東京都豊島区西池袋1-8-1

公演スケジュール

11/26(木)	19:00
11/27(金)	15:00★
11/28(土)	13:00／18:00★
11/29(日)	13:00
★	ポスト・パフォーマンストークあり

上演時間

2時間(休憩なし・予定)

上演言語

日本語・韓国語上演(日本語、韓国語字幕あり)

チケット情報

一般前売

自由席(整理番号つき)
4,000円(当日+500円)



『TODO EL CIELO SOBRE LA TIERRA (EL SÍNDROME DE WENDY)』

英題:All the Sky Above the Earth (Wendy's Syndrome)

『地上に広がる大空(ウェンディ・シンドローム)』

作・演出・美術・衣裳…アンジェリカ・リデル(アトラ・ビリス・テアトロ)

11月21日(土)～11月23日(月・祝)

東京芸術劇場 プレイハウス



©Ricardo Carrillo de Albornoz

エロスと殺戮 ネバーランド「ウトヤ島」 愛と孤独の深部をえぐり出す 衝撃のポエティック・ドラマ

ヨーロッパで話題を集める
過激かつ詩的な奇才・初来日

アヴィニョン演劇祭、パリ・オデオン座などヨーロッパの主要なフェスティバルや劇場でラディカルな演劇作品を継続と発表し続ける、スペインのアーティスト、アンジェリカ・リデル。社会的・経済的意識から作品をつくるのではなく、常に個人の意識から出発し、決して日常では発言できず、打ち明けることのできない、魂の深部、感情、動きを徹底的に描き出す彼女の代表作がF/T15で日本初演される。

混沌と美が共存する詩的かつ過激な彼女の舞台は、ヨーロッパの演劇シーンにおいて常に高い注目を集めている。演出家・俳優としてのみならず、作家としても高く評価されるリデルは2012年、『La casa de la fuerza』でスペインで最も権威ある「スペイン劇文学国家賞(Premio Nacional de Literatura Dramática)」を受賞。その作家性も高く評価され、戯曲は英語、フランス語、ロシア語、ドイツ語など世界各国で翻訳されている。また、2013年にはヴェネチア・ビエンナーレ国際演劇祭において最も注目すべき新しい才能に贈られる「銀獅子賞」を受賞。同賞の受賞はスペイン人女性として初めてのことである。

リデルが描く 愛と憎悪に満ちたウェンディ

本作『地上に広がる大空(ウェンディ・シンドローム)』では、日本でもお馴染みのファンタジー「ピーター・パン」のヒロイン、ウェンディが、ノルウェイのウトヤ島で数多くの若者が虐殺された銃乱射事件の2週間後、遠く離れた上海へと旅立つという壮大なストーリーが展開される。ネバーランドをウトヤ島と重ねつつ描かれるのは、暴力と混沌に満ちた世界に生きるウェンディの心理。若さの喪失に支配され、孤独を恐れ、母親への憎しみを抱えるウェンディが上海で出会ったのは、路上で踊る老いた踊り子たちだった—。

8人のウィーンの樂士が奏でるワルツ、ノルウェイの贊美歌、中国琵琶の調べなどさまざまな音楽が流れる中、舞台は現実と虚構の間を往来する。そして、世界の欺瞞、虚像の愛や母性を罵倒する、リデルによる怒濤のモノローグが始まること。

2013年のウィーン芸術週間でオープニング作品として上演され大きな話題となったアンジェリカ・リデルの渾身の舞台は、日本の観客にも大きな衝撃と興奮を与えるだろう。

アーティスト・プロフィール

アンジェリカ・リデル Angélica Liddell

作家、演出家、俳優

1966年スペイン生まれ。アーティストネームである「リデル」は、ルイス・キャロルの小説「不思議の国のアリス」のモデルであるアリス・リデルからとられた。1993年にグエルシンド・ブチエと共にアトラ・ビリス・テアトロを設立。性、死、愛、権力、狂気、宗教などを通じ、個人の意識や魂の奥底を見つめることから人間や社会をとらえる作品を作り続けている。混沌と美が共存する詩的かつ過激な舞台は、2013年にオープニングを飾ったウィーン芸術週間をはじめ、アヴィニョン演劇祭、パリ・オデオン座などヨーロッパの主要なフェスティバルや劇場に招聘され、ヨーロッパの演劇シーンで常に高い注目を集めている。また、劇作家、演出家であると同時に、俳優としても自身の作品に出演し、強烈な印象を残している。2012年『La casa de la fuerza』で「スペイン劇文学國家賞(Premio Nacional de Literatura Dramática)」を受賞。また、2013年にはヴェネチア・ビエンナーレ国際演劇祭において「銀獅子賞(el León de Plata)」を受賞している。



キャスト／スタッフ

出演 ファビアン・アウグスト・ゴメス
ボオルケス、シエ・グイニュー、
ロラ・ヒメネス、ダグニー・バッケル・ヨンセン、アンジェリカ・リデル、シンド・ブチエ、ジャン・チーウェン、マキシム・トロウセット、イエ・サイトー、フェイス(室内樂アンサンブル)、
トン・ウー・シュエイン(中国琵琶)
音楽 チョ・ヨン・ムク
照明 カルロス・マルケリエ
照明操作 オクタビオ・ゴメス
音響 アントニオ・ナバーロ
技術監督 マーク・バルトロ
舞台監督 アフリカ・ロドリゲス
演出助手 マリア・ホセF・アリステ
制作 グエルシンド・ブチエ、イエ・サイトー、
ジェニカ・モンタルバーノ
プロデューサー グエルシンド・ブチエ
製作 イアキナンディ
共同製作 アヴィニョン演劇祭、ウィーン芸術週間、
オデオン座、フェスティバル・ド・トンヌ、
デ・シングル劇場、ルパルビス・シーン
協力 国立タルプ・ビレネー劇場
テアトロス・デル・カナル(マドリード)、
タンツクウォーター劇場(ウィーン)
助成 スペイン国立舞台芸術音樂機関-INAE
技術監督 寅川英司
舞台監督 渡部景介
演出部 中原和彦、村上 希
美術コーディネート 安倍美波
小道具コーディネート 定塚由里香
音響コーディネート 相川 晶(有限会社サウンドウーズ)
照明コーディネート 佐々木真喜子(株式会社ファクター)
字幕 上野詩織(舞台字幕／映像 まくうち)
制作 砂川史織、松宮俊文、十万堀紀子
主催 フェスティバル/トキヨー

公演情報

会場

東京芸術劇場 プレイハウス
東京都豊島区西池袋1-8-1

公演スケジュール

11/21(土) 18:00
11/22(日) 18:00
11/23(月・祝) 14:00

上演時間

2時間40分(休憩なし)

上演言語

スペイン語(一部英語、北京語、ノルウェイ語)上演
(日本語、英語字幕あり)

チケット情報

一般前売

全席指定 5,500円(当日+500円)

パリ市立劇場『犀』^{サイ}

作…ウジェーヌ・イヨネスコ 演出…エマニュエル・ドゥマルシー=モタ

11月21日(土)～11月23日(月・祝)
彩の国さいたま芸術劇場 大ホール



©Jean-Louis FERNANDEZ

パリ、ニューヨーク、ロンドンを席巻した話題の不条理演劇

パリの名門劇場を率いる俊英、
日本初登場

パリを代表する公共劇場の一つ、パリ市立劇場。ピナ・バウシュ ヴツバタール舞踊団をはじめロバート・ wilson、F/T14でも好評を博したさいたまゴールド・シアターなど、年間を通じて、世界の最前線で活躍するアーティスト、カンパニーを招聘する意欲的なプログラムで知られるパリ市立劇場が、不条理劇の傑作、イヨネスコの『犀』^{サイ}を携え、初来日を果たす。

演出を務めるのは、同劇場の芸術監督で、2012年からはパリを代表する舞台芸術の祭典「フェスティバル・ドートンヌ(The Festival d'Automne)」の芸術監督も兼任するエマニュエル・ドゥマルシー=モタ。これまでにもさまざまなアーティスト、俳優との共同作業を通じてシェイクスピアやピランデルロ、ブレヒトなど、数多くの古典的作品を新鮮なスタイルで上演してきた、現代のパリを代表する演劇人の一人だ。

極上のエンターテインメントに仕上げられた 不条理演劇

本作は、2004年にパリ市立劇場で初演され、2011年からは、ニューヨーク、ロサンゼルスなどを巡るアメリカツアー(2012)、ロンドン、モスクワ、アテネ、バルセロナ(2013)、チリ、アルゼンチン(2014)、ブラジル(2015)など12カ国34都市で上演され、世界的な成功を収めた。

壮大な仕掛けを用いた舞台装置、身体性に富んだスピード感のあるドゥマルシー=モタの演出は、不条理演劇につきまとう「難解」「退屈」といったイメージを鮮やかに裏切っていく。人々が次々と犀に変身し、やがて街中が犀に埋め尽くされるという物語は、イヨネスコ自身が1930年代に故国ルーマニアで見たファシズム台頭の風景から生まれたとされているが、そこに描かれた全体主義の滑稽さや恐怖は現代社会にも大いに通じるものだ。寓意に満ちた戯曲を、俳優たちのアンサンブルが生き生きと立体化する本作は、経済効率に支配され、生活スタイルや環境さえ一画にされつつある私たちの日常に、鋭い問いを投げかけるものとなるだろう。

●あらすじ アル中気味でうだつが上がらないベランジェは、友人のジャンとカフェテラスにいるとき、一頭の犀が街を駆け抜けるので目撃した。騒然とする街の人々をよそにベランジェはどこ吹く風。翌日、ベランジェが出勤すると、オフィスは犀の話題でもちきりだった。そこに欠勤が続くブフ氏の妻が犀に追われて駆け込んで来る。しかし、彼女を追って来た犀こそがブフ氏だと気づくと、ブフ夫人は制止を振り切って犀に飛び乗ってしまうのだった。次第に犀の目撃情報が増える中、喧嘩したジャンと仲直りをするため、ベランジェは彼の家へ向かった。だが、ジャンもまた犀に変身し、隣人も管理人も犀に変身してしまう。いよいよ街は犀に占拠され、ベランジェと同僚のティジーは二人で生きて行こうとするのだが…。

アーティスト・プロフィール

エマニュエル・ドゥマルシー=モタ Emmanuel Demarcy - Mota

演出家、パリ市立劇場芸術監督

1970年ノイイ＝シユル＝セーヌ(フランス)生まれ。パリのリセ・ルイ＝ル＝グラン学院に在学中の17歳で、仲間を集めて演劇を始める。パリ大学進学後も演劇活動を続け、22歳でテアトル・ド・コミュニケーションで演出した『兵士の物語』(シャルル・フェルディナン・ラミユーズ)がリヨン・ビエンナーレのチルドレンシアターに招聘される。2002年から2008年までランス国立演劇センターの芸術監督を務め、ファブリス・メルキオの戯曲を初舞台化したほか、ミュージシャンや俳優などさまざまなアーティストとの共同作業を行った。またフランスのみならずヨーロッパ多くの劇団と長期に渡り提携し、その創作と普及をサポート。さらにメルキオと共に実験的な劇作家を支援したほか、俳優の養成施設の設立、稽古や新たな創作のためのアトリエ建設など多くの功績を残した。2008年、パリ市立劇場の芸術監督に就任。2011年より「フェスティバル・ドートンヌ」の芸術監督も兼任している。



©Jean-Louis FERNANDEZ

キャスト／スタッフ

作……………ウジェーヌ・イヨネスコ
演出……………エマニュエル・ドゥマルシー=モタ
演出補……………クリストフ・フルメール
アーティスティック・コラボレーター………フランソワ・ルニヨー
舞台美術・照明………イヴ・コレ
音楽……………ジェファーソン・ランペイエ
衣裳……………コリーヌ・ボードウロ
ヘアメイク………カトリーヌ・ニコラ
小道具……………クレモンティーヌ・アゲタン
出演……………セルジュ・マジアーニ、ユーフ・ケステル、
ヴァレリー・ダッシュウッド、フィリップ・
ドウマール、シャルル＝ロジエ・ブルー、
ヨリス・カサノヴァ、サン德拉・フォーレ、
ガエル・ギィユ、サラ・カルバシュニコフ、
ステファン・クレヘンビュール、ジェラール・
マイエ、ウォルター・ンギュイエン、
パスカル・ヴィルモ
製作……………パリ市立劇場
共同製作………ルクセンブルク市立劇場、ロワール・アトランティック公立劇場「ル・グラン・T」
字幕翻訳………岩切正一郎
制作……………松野 創、原口さわこ、高木達也(彩の国さいたま芸術劇場)、
十万亜紀子(フェスティバル/トーキョー)
助成……………アンスティチュ・フランセ パリ本部
後援……………在日フランス大使館
アンスティチュ・フランセ 日本
主催……………公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団、
フェスティバル/トーキョー実行委員会、
豊島区、公益財団法人しま未来文化財団、
NPO法人アートネットワーク・ジャパン
協力……………アーツカウンシル東京・東京芸術劇場
(公益財団法人東京都歴史文化財団)

公演情報

会場

彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
埼玉県さいたま市中央区上峰3-15-1

公演スケジュール

11/21(土) 19:00
11/22(日) 15:00
11/23(月・祝) 15:00

上演時間

1時間45分(休憩なし)

上演言語

フランス語上演(日本語字幕あり)

F/Tチケット情報

一般前売

全席指定 S席6,000円、A席4,000円
(当日+500円)



INSTITUT
FRANÇAIS

ギンタースドルファー/クラーセン 『LOGOBI 06』

11月26日(木)～11月29日(日)
アサヒ・アートスクエア



photo:Knut Klaßen design:Shun Ishizuka

コートジボワールと日本。 2人のダンサーによる会話とダンスの交換に浮かび上がるものは——？

何が起こるか分からない、即興的ダンスと対話が 生み出す異文化の架け橋

ドイツを拠点に活動するクリエイティブ集団ギンタースドルファー/クラーセンによるダンスプロジェクト「LOGOBI」シリーズ。ドイツやオランダなどで上演され好評を博したシリーズの最新作『LOGOBI 06』がF/T15にて上演される。

ロゴビ(LOGOBI)とは1980年代にコートジボワールで生まれた、日常的に踊られるダンス。警備員やドアマンといった屈強な男性同士が互いを挑発するためにダンスを見せつけ合っていたのが始まりだが、現在ではより洗練され、子供や女性も踊るダンスタイルへと昇華しており、ヨーロッパ(特にフランス)においてもひとつのジャンルとして確立している。「LOGOBI」シリーズは、その手法や文脈と、ヨーロッパのコンテンポラリーダンスに、どのような違いや共通点があるのかを見出そうとスタートしたプロジェクトだ。

その創作過程や上演方式は独特。出演するのは二人のダンサー。『LOGOBI 01』(2009)と『LOGOBI 02』(2009)ではゴッタ・デブリ、『LOGOBI 03』(2009)以降はフランク・エドモンド・ヤオと、メインダンサーにはコートジボワール出身のダンサーを起用。パートナーには、ローラン・シェトウアーヌやリチャード・シーガルといったコンテンポラリーダンサーが出演してきた。出演者は公演の約1週間前より稽古を行うが、事前に動きの一つひとつを決定したり、練習するわけではない。毎公演の選曲やダンス

は、ダンサーが舞台上で会話をくりひろげながら即興的に決め、話された内容はゲストダンサーが通訳となり観客に伝える。したがって、毎公演一度として同じパフォーマンスはない。

多国籍チームが浮かび上がらせる文化の違い

本作の演出家モニカ・ギンタースドルファーは、2005年よりヴィジュアル・アーティストのクヌート・クラーセンと共に活動を開始。コートジボワール出身の振付家であるフランク・エドモンド・ヤオらと一緒に、多国籍なチームを結成。ダンスや演劇といった分野や、国籍、会場形態など、あらゆる垣根を越えた舞台作品やビデオプロジェクトを製作している。特に『Très très fort』(2009)や『Othello c'est qui』(2008)といった演劇とダンスを融合させた作品で、アフリカとヨーロッパにおける文化や文脈の違いを認識させるような作品を製作しており、「LOGOBI」シリーズもまた、それに当たる。

日本バージョンとなる『LOGOBI 06』では、フランスで活躍中の日本人ダンサー、イスマエラ 石井丈雄がフランク・エドモンド・ヤオのパートナーとして迎えられる。イスマエラ 石井丈雄はコンテンポラリーダンスにこだわらず、ストリートダンスや民族的なダンスなど幅広く習得してきたダンサーであり、それらを融合した独特的のダンスタイルの持ち主である。1週間の稽古を経て、彼ら二人のダンスはどのように混じり合い、またはすれ違うのか。文化や身体の違いや共通点が浮かび上がる。

アーティスト・プロフィール

ギンタースドルファー/クラーセン Gintersdorfer/Klaßen

演出家モニカ・ギンタースドルファーとヴィジュアル・アーティストのクヌート・クラーセンが2005年に結成したチーム。ドイツやコートジボワール出身の人々で構成され、ダンスや演劇作品、映像のプロジェクトを創作している。ダンサーや歌手、時には法律の専門家も参加し、さまざまな問題に対峙し、身体表現に落とし込むことに取り組んでいる。これまで、コンゴ、ルワンダ、オランダなどからもゲストを迎えていた。これまで、コンゴ、ルワンダ、オランダなどからもゲストを迎えていた。



フランク・エドモンド・ヤオ Franck Edmond Yao

振付家、ダンサー、パフォーマー、歌手

コートジボワールの旧首都アビジャンでダンスと演劇を学ぶ。2003年から4年連続でパリの移住者のなかからベストアフリカンダンサーに選ばれ、賞を獲得。コートジボワール起源のダンスマュージックである「クーベ・デカレ」のアーティストの振付も行っており、自身でも2008年にクーベ・デカレのアルバムをリリースしている。ギンタースドルファー/クラーセンとは2005年より主要な出演者として共に作品を創作している。現在、別名Gadoukou la Starでも活動中。



©Knut Klaßen

イスマエラ 石井丈雄 Ismaera Takeo Ishii

ダンサー

セネガルのサバールダンス、舞踏、コンテンポラリー、ヒップホップ等のダンスを踊る。現在はフランスに移住し、フランス国内やブリュッセル、ベルリン等で活動している。主にCarolyn Carlson, David Zambrano, Zahrbat, Flying Steps, Wanted Posseなどの作品に参加。ジャンルに捉われない自由なダンス得意とし自身のダンスを発展させている。2012年の横浜ダンスコレクション作品部門ファイナリスト。また2011年から3年連続でパリにて行われるストリートダンスの世界大会Juste Deboutのファイナリストとなる。



©Alex Apt

キャスト／スタッフ

演出 モニカ・ギンタースドルファー

ビジュアル・アート クヌート・クラーセン

出演 フランク・エドモンド・ヤオ、
イスマエラ 石井丈雄

東京公演スタッフ

技術監督 寅川英司

舞台監督 加藤由紀子

演出部 横川奈保子

照明コーディネート 佐々木真喜子(株式会社ファクター)

音響コーディネート 相川 晶(有限会社サウンドウイーズ)

制作アシスタント 堀 朝美

特別協力 東京ドイツ文化センター

後援 ドイツ連邦共和国大使館(申請中)

制作 松嶋瑠奈、喜友名織江

主催 フェスティバル/トキヨ



公演情報

会場

アサヒ・アートスクエア

東京都墨田区吾妻橋1-23-1 スーパードライホール4F

公演スケジュール

11/26(木) 17:00

11/27(金) 19:30

11/28(土) 13:00／17:00

11/29(日) 17:00

上演時間

1時間(休憩なし・予定)

上演言語

フランス語上演(日本語逐次通訳あり)

チケット情報

一般前売

自由席(整理番号つき) 3,500円(当日+500円)

ゲーテ・インスティトゥート韓国 × NOLGONG 『Being Faust - Enter Mephisto』

構成…ピーター・リー

11月19日(木)～11月22日(日)
東京芸術劇場 シアターイースト



©Goethe-Institut Korea / Yunsik Lim

ファウストになって得点を競え! 戯曲から生まれた観客参加型“遊戯”

インタラクティブな空間で『ファウスト』を再解釈

ファウストとメフィストがもし、このデジタル社会で出会っていたならどうなるのか？

ドイツの文豪ゲーテの代表作『ファウスト』を題材に開発された観客参加型作品『Being Faust - Enter Mephisto』は、古典の戯曲をデジタルな空間にインストールし、戯曲上演の新たな形式を提示している。

ファウスト博士が学問を究めるため、悪魔メフィストと契約を結ぶことから始まるこの物語を現代に置き換える再解釈したのは、ベンヤミン・フォン・プロムベルク。パンキッシュかつ緻密な演出で話題を呼んだニコラス・シュテーマンの『ファウスト』のドラマトゥルクをつとめた人物だ。

参加者はまず、ファウスト役として、メフィストと取引するための「契約」を結び、ゲームにログインする。会場内には『ファウスト』からの引用文をプリントしたインスタレーションが展示され、ファウストたちはスマートフォン片手に自由に動き回りつつ、メフィストの提供する「価値」や「理想」＝引用文を購入していく。

成功や富はどこまで「買う」ことができるのか。人生に

おける価値とは何か。自身の価値基準はどのようにして決まるのか。欲しいものを得ようとするとき、誰／何がどのような影響を及ぼしてくるのか——。ゲーテの問い合わせが空間化された本作を体験し、私たちは改めて自身の価値観について考えることとなるだろう。

「遊び」を通して探る、自身の価値基準

インスタレーションの中で行われるフィジカルなゲームとも、オンラインゲームとも言える本作は、ゲーテ・インスティトゥート韓国と、ピーター・リーが代表を務めるゲーム開発会社「NOLGONG」が共同で手がけたプロジェクト。ゲームという形式は、年齢性別問わず誰でも気軽に参加できるもので、『ファウスト』の知識がなくても十分に楽しめるのも魅力だ。2014年にソウル図書館で発表されて以来、ソウル市内のさまざまな場所に加え、香港、ヨハネスブルグ、プラハ、ブダペストなど、世界各地の劇場や図書館などで実施されている。日本初演となる本公演では、劇場の舞台上にインスタレーション空間がつくられ、普段の劇場とは違った雰囲気を体感することができる。

アーティスト・プロフィール

ピーター・リー Peter Lee

NOLGONG クリエイティブ・ディレクター

ゲーム開発者であり、教育学の専門家。タイムマネジメントのための「Serious Games」や、学校の日常をゲームに置き換えたスクールプロジェクト「Quest to learn」などを開発。ニューヨーク「Institute of Play」の役員会メンバーでもある。韓国でNOLGONG社を設立。ゲームと教育学の理念のもと、チーム形成や想像力促進を目的とした大規模なゲームの開発にあたっている。また、非営利活動として「NOLGONG Classics」を立ち上げ、文学作品を、ソーシャルメディアを利用した体験型ゲームに発展させるプロジェクトを行っており、『Being, Faust - Enter Mephisto』のほか、ジョージ・オーウェル『1984』、トルストイ『アンナ・カレーニナ』、シェイクスピア『ロミオとジュリエット』などを開発している。



キャスト／スタッフ

構成 ピーター・リー
ドラマトゥルク ベンヤミン・フォン・プロムベルク
制作 喜友名織江
企画・製作 ゲーテ・インスティトゥート韓国、
NOLGONG
共催 東京ドイツ文化センター
主催 フェスティバル/トキヨー



公演情報

会場

東京芸術劇場 シアターイースト
東京都豊島区西池袋1-8-1

公演スケジュール

11/19(木)
11/20(金)
11/21(土)
11/22(日)

※開演時間は決定次第F/T公式HPにて発表

上演時間

1時間(予定)

チケット情報

一般前売
2,000円(当日+500円)

『ラウンドアバウト・イン・ヤンゴン』

構成・出演…ティーモーナイン 演出・出演…ニヤンリンテツ 音楽・出演…ターソー

11月13日(金)～11月15日(日)
アサヒ・アートスクエア



©猪瀬まな美 (ノラネコデザイン)

ミャンマーの“いま”を映し出す3アーティストを招聘し、1週末・1会場で一気に紹介

■アジアシリーズとは

さまざまな言語や文化が混在するアジア地域から1カ国を選定し、その国にフォーカスした特集を行う「アジアシリーズ」。綿密なリサーチを通して歴史や文化的背景に関する知識を深め、表現活動を紹介する。また現地で活動するアーティストとの対話や作品鑑賞を通じて、舞台芸術を含むアートシーン全体の現状を把握、多様な言語、文化、身体のありかたをふまえた企画を立ち上げ、継続性のある交流を目指す。「アジアシリーズ」初年度となつたF/T14では韓国を特集。今年度は国際交流基金アジアセンターと共に、ミャンマーを特集する。また、今後はマレーシアに焦点をあてる予定である。

■アジアシリーズ vol.2 ミャンマー特集

2011年のティエンセイン文民政権の発足以来、民主化が進められ、人々の生活や娯楽のあり方も急速に変化しつつあるミャンマー。軍事政権下では制限されていた「集会の自由」が認められはじめ、観客を伴うイベントの開催も容易になり、さまざまな場所でパフォーマンスを行う環境が整いつつある。また、インターネットによる情報の流入や海外との交流が盛んになるにつれ、多様なメディアを用いた新たな表現が生まれている。アートシーンが大きく変化つつある過渡期のミャンマーを目撃すべく、この特集は企画された。

今回は、ミャンマーのアートシーンをそれぞれに体現する3名のアーティスト、ティーモーナイン(映画監督、詩人、パフォーマー)、ニヤンリンテツ(Theatre of the Disturbed主宰、演出家、パフォーマー)、ターソー(ミュージシャン、DJ)を招聘し、会場構成には気鋭の建築家/美術家、佐野文彦を迎えて、インスタレーションや映像作品を含む展覧会、現代演劇(パフォーマンス)、音楽ライブと、第三者の形態での作品発表を行なう。

ジャンルや表現方法の異なるアーティストたちが、ミャンマーの文化的アイデンティティを中心に据えつつ、交錯しながらそれぞれの方向へ進んでいく様子は、ミャンマーの主要都市ヤンゴンで見られる、信号のない環状交差点“ラウンドアバウト”的なイメージに重なっていく。

演劇、インスタレーション、クラブミュージック…。

三人三様の表現でミャンマーを物語る

ティエンセイン政権の発足を機に民主化が進み、社会の著しい変化に直面するミャンマー。表現に関する規制緩和やインターネットの普及をきっかけに、現代アートも多様な変化を見せている。

ミャンマーの現代アーティストの特徴は、一人で詩、パフォーマンス、絵画、映像など多岐に渡る表現方法を用いることにある。なかでも詩は音楽やパフォーマンスなどを組み合わせ、ミャンマーの現代アートを語る上で重要なキーワードとなっている。今回紹介するティーモーナインもその一人。自身が監督した映画『The Monk』が世界的に評価されるなど映像作家として知られているが、今回はインスタレーションや映像作品に加えそれらの作品に関連するパフォーマンスも行う予定である。

2人目は、寺の祭りで上演される音楽劇「ザッポエ」が主流となっているミャンマー演劇界にあって、Theatre of the Disturbedを主宰し、独自路線を歩んでいるニヤンリンテツ。現代演劇を学び、オリジナル作品に加え英語やフランス語のスキルを活かしてヨーロッパの戯曲を翻案上演するなど、ミャンマーにおいて画期的な実践を試みているアーティストである。今回は、ミャンマー社会を風刺したメッセージ性の強い演劇作品を上演する。

ミャンマーの現代アートシーンでは、伝統的な文脈と交差する表現は容易には見つけられない。しかしながら音楽シーンにおいてはそれを実現しているアーティストがいる。ミュージシャンのターソーは、精霊信仰の儀礼の際に人形劇、「ザッポエ」で使用される打楽器群「サインワイン」が奏でる伝統音楽をミックスし、クラブミュージックに昇華させている。今回は伝統舞踊のダンサーと共にパフォーマンス・ライブを行う。

なお、本特集は2つのプログラムから構成される。「Aプログラム」は、ティーモーナインのパフォーマンスとニヤンリンテツの演劇作品の2本立てで、ティーモーナインのインスタレーションや映像も展示。「Bプログラム」ではターソーの音楽ライブを行う。また、関連企画としてミャンマー映画の上映やトークイベントの開催も予定している。

ひとつの会場で、3アーティストの作品を一挙に紹介

会場構成は新進気鋭の建築家/美術家、佐野文彦

今回、3人のアーティストが作品を発表する空間を総合的に構成するのは、佐野文彦。ELLE DÉCOR Japan Design Award 2014に選出されるなど近年注目を集め建築家/美術家である。数寄屋大工としての経験を持ち、東南アジアの伝統産業と日本のデザイナーを結ぶ「グッドデザイン・メンコンデザインセレクション」を通じミャンマーとの関わりを深めている彼が、3人のアーティストとどのように向き合い、相乗効果を生み出すのか、期待が高まる。

アーティスト・プロフィール

ティーモーナイン The Maw Naing



映画監督、詩人、パフォーマー

1971年生まれ。ビルマ文学とITを研究する傍ら、Yangon Film SchoolとプラハのFAMU(プラハ芸術アカデミー映像学部)で映画製作を学ぶ。2004年、初めての詩集を発表。詩をもとにしたインスタレーションやパフォーマンス、映画『Again and Again』(2008)も手がける。数々の短編映画を撮影された長編ドキュメンタリー映画『NARGIS: WHEN TIME STOPPED BREATHING』(2012)は数々の国際映画祭で上映されている。また、長編フィクション映画デビュー作となった『The Monk』(2014)は、シンガポール国際映画祭やロッテルダム映画祭に出品されるなど、世界的に注目を集めている。NIPAF(2009)、福岡アジアトリエンナーレ(2014)にも出品している。

ニヤンリンテツ Nyan Lin Htet



© Theatre of the Disturbed
Theatre of the Disturbed主宰、演出家、パフォーマー

ミャンマーとフランスを拠点に活動。2000年代初頭にパフォーマンスマニア作品を製作し、その後、キタムラアラタが演出をつとめる劇団『Annees Folles』にて演劇の訓練をうける。以後、今日に至るまで、積極的に世界のパフォーマンスマニアや演劇シーンに携わっている。05年にヤンゴンに拠点を置く『Theatre of the Disturbed』を設立してからはシェイクスピア、ベケット、ヨネスコ、カフカなどを翻案した作品で、演出も手掛けている。

ターソー Thxa Soe



ミュージシャン、DJ

1980年生まれ。中学生の頃から音楽を始め、高校卒業後、地元のアンダーグラウンド・ヒップホップシーンと関わるようになり、友人と「W.Y.W」を結成。1998年に解散後、ヒップホップミュージシャンBarbuがメインを務める「Fi Gi-D」に加入した。2000年グループ名を「Theory」に変えてファーストアルバムをリリースする。2001年よりロンドンにあるSchool of Audio Engineering Instituteでエレクトロミュージックを学びながら、ミャンマー音楽についての研究も始める。2004年に帰国し、再び音楽活動を始める。2006年よりミャンマーの伝統音楽をミックスしたエレクトロミュージックの創作を始め、ファーストソロアルバム「Yaw Tha Ma Mhwe」をリリースする。2012年までに5枚のソロアルバムを発表。最新アルバムは「R-Lu, Thar-Ku, Hna-Bu, Gan-du」(2015)。

キャスト／スタッフ

構成・出演	ティーモーナイン
演出・出演	ニヤンリンテツ
音楽・出演	ターソー
会場構成	佐野文彦
照明、舞台監督	田代弘明(株式会社DOTWORKS) コーディネート
音響コーディネート	堤田祐史(WHITELIGHT)
テクニカルコーディネート	遠藤 豊(LUFTZUG)
翻訳	山本文子
制作	松嶋瑠奈、喜友名織江
共催	国際交流基金アジアセンター
主催	フェスティバル/トキヨー

公演情報

会場 アサヒ・アートスクエア

東京都墨田区吾妻橋1-23-1 スーパードライホール 4F

公演スケジュール

11/13(金) 15:00[A]★	19:30[B]
11/14(土) 15:00[A]	19:30[B]
11/15(日) 15:00[A]★	

★ポスト・パフォーマンストークあり

上演時間・上演言語

[A] ティーモーナイン(パフォーマンス、インスタレーション、映像作品)
ニヤンリンテツ(演劇作品)
上演時間: 1時間15分(予定・休憩あり)
上演言語: ミャンマー語(日本語字幕あり)

[B] ターソー(音楽ライブ) 上演時間: 1時間(予定)

チケット情報

一般前売

[A] 自由席(整理番号つき)	2,000円(当日+500円)
[B] 自由席(整理番号つき)	2,500円(当日+500円)
[A・B] セット券	4,000円(前売りのみ販売・同日のみ対象)

F/Tサポーター

シンポジウム
2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けて、東京の文化プログラムに大きな注目が集まる中、各地で開催されているアートフェスティバルの役割と、その可能性とは。国内外のフェスティバル・ディレクターや文化関係者をパネリストに迎え、今後のフェスティバルの役割と戦略、そのネットワークの展望と可能性を議論する。

トーク

■タデウシュ・カントル生誕100年記念「ポーランド演劇の現在形」

これまでポーランドの現代演劇は、20世紀を代表する演出家・美術家タデウシュ・カントル(1915-1990)と、カントルと並び称されるイエジー・グロトフスキ(1933-1999)の名前と共に、日本でもその魅力が広く知られてきた。この二人を起点にベルリンの壁が崩壊した1989年以降の動きに焦点を当て、多彩なゲストを迎えて、映像上映や展示と共に連続トークを開催。同時代のポーランド演劇の見取り図を描く。

トーク

■多民族国家マレーシアにおけるパフォーミング・アーツ

アジア地域から1カ国を選定し、特集を行う「アジアシリーズ」。今後、同シリーズでは、2000年代に入り、劇場やアートセンターなどが相次いでスタートし、東南アジアにおける舞台芸術シーンにおいて急速に存在感を高めるマレーシアを特集予定。著しい経済発展の一方で多民族国家として様々な困難を抱える同国で、アーティストは既存の枠組みにとどまらず新たな表現を切り開いている。F/T15では、マレーシアからアーティスト、プロデューサー等を招き、同国の舞台芸術シーンの現在と今後の展望についてトークを実施する。

※会場、スケジュール、チケット料金等の詳細は決まり次第、公式HP等で告知。

※各イベントのタイトル・内容は変更になる場合あり。

展示

今年5月にオープンした豊島区新庁舎内の回廊状の廊下を利用した「庁舎まるごとミュージアム」において、メインビジュアルを活用した展示を開催。区役所を訪れる一般の方にF/Tを知り、体感してもらえる展示を開催する。

また、あうるすぼつと同建物内にある区立中央図書館では、F/T15で上演する演目についての書籍の紹介、展示を行う。上演作品への関心や、知識を得ることができる場所となる。

会期:10月上旬から11月下旬

会場:豊島区新庁舎内、豊島区立中央図書館内

F/Tを応援し、一緒に盛り上げる活動を行う「F/Tサポーター」。昨年度までの「F/Tクルー」(ボランティアスタッフ)をリニューアルし、F/T15からは装いも新たに「F/Tサポーター」に名を改め、新プログラムとして始動する。F/T会期中の運営補助、プロジェクト(公演)のサポート、自主活動の三本の柱で、年間を通して活動を展開。サポーター登録自体には締切を設けず、フェスティバルに興味を持った段階で、いつでも登録することができる。観客としてフェスティバルを体験するだけではない、多彩な参加の機会を提供する。サポーター活動を通じて、舞台芸術とつながり、フェスティバルの賑わいづくりに寄与することを目指している。

【I】フェスティバル運営補助

フェスティバル会期中の劇場のフロント運営補助や、PR活動などを行う。昨年度までも、100名前後の「F/Tクルー」(ボランティアスタッフ)が、フェスティバルを支えた。今年からは、「F/Tサポーター」としてプログラムと連携し、来場者に対しより細やかなおもてなしを行う。

【II】プロジェクトサポート

「盆踊り隊」、「はっぴ作り隊」

プロジェクトサポート第一弾として、昨年の『フェスティバルFUKUSHIMA!@池袋西口公園』で生まれた「池袋西口音頭」を踊って盛り上げる「盆踊り隊」と、特製はっぴを作成する「はっぴ作り隊」が活躍。「盆踊り隊」のメンバーたちは、珍しいキノコ舞踊団による盆踊りマスタークラシックショップで振りを習得。都内の盆踊り大会などに出張参加し、「池袋西口音頭」を通じて地域住民を巻き込み、F/T15会期前からフェスティバルを盛り上げていく。

【III】自主活動

「F/Tで遊ぼう～はなす・みつける・つくるワークショップ～」

進行は、SPAC - 静岡県舞台芸術センターで2012年より開催している「静岡から社会と芸術について考える合宿ワークショップ」でもファシリテーターを務めるなど、その活動が注目を集めている、白川陽一。多様な参加者から想いを引き出し、対話の場をつくることが特徴だ。本ワークショップでは、F/Tが楽しくなるようなアイディアを持ち寄り、F/T15での企画を考え、実施まで行う。会場周辺をリサーチし、フェスティバルについての対話を深める中で、参加者は東京や舞台芸術の魅力を再発見するだろう。観客目線で考えられた企画は、フェスティバルに新たな風を吹き込むに違いない。

日 程… 7/19(日)13時～17時「F/Tってなに? F/Tが楽しくなる企画を考えよう」

8/23(日)13時～17時「池袋というまちを知ろう」

9/13(日)10時～18時「企画をデザインしよう」

10/3(土)10時～18時「企画の準備をととのえよう」

12/13(日)13時～17時「活動をふりかえり、未来につなげよう」

会 場… にしづがも創造舎、あうるすぼつ3F会議室(8月23日のみ)

参加費… 無料

進行役… 白川陽一(Keramago Works / ケラマーゴ・ワークス)

制 作… 横井貴子

主 催… フェスティバル/トーキョー

同時開催 アジア舞台芸術祭2015

プロデューサー…宮城 聰

【アジア舞台芸術祭とは】

アジア舞台芸術祭は、舞台芸術を通じたアジア各都市の相互理解と文化交流を促進するとともに、アジアの舞台芸術の水準向上や舞台芸術における優れた人材・作品の発掘、作品を世界に流通させる市場を育成することを目的に開催する芸術祭である。

各アジア都市の若手アーティストがコラボレーションして、1年目に15分程度の小作品を、2年目にその小作品を60分程度のフルサイズに発展させた作品を制作・上演する。

11月13日(金)～11月15日(日)
東京芸術劇場 シアターイースト

入場無料



国際共同クリエーション公演2014『うえる』

プログラム 1 国際共同クリエーション公演

昨年度(平成26年度)の国際共同制作ワークショップで「米と稻～食文化の共通性と差異について～」をテーマに制作された小作品のうち、選ばれた1作品をフルサイズに発展させ上演。

『黄金のごはん食堂』 演出…ノ・チヘ(韓国)

公演情報

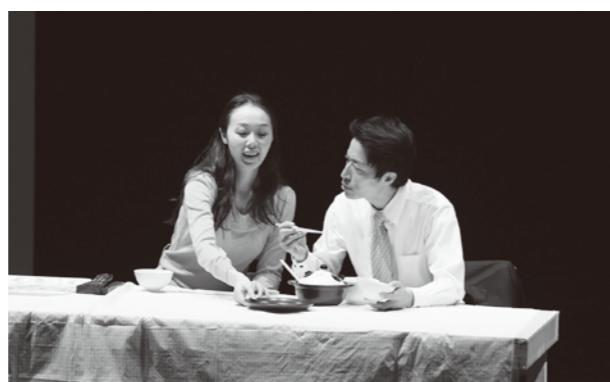
会場

東京芸術劇場 シアターイースト
東京都豊島区西池袋1-8-1

公演スケジュール

11/13(金) 19:00★
11/14(土) 16:30
11/15(日) 16:30

★ポスト・パフォーマンストークあり 出演:宮城聰ほか



国際共同制作ワークショップ2014『黄金のごはん食堂』

プログラム 2 国際共同制作ワークショップ—作品上演会

アジア発の新しい舞台芸術の創造をめざし、アジアの若手アーティストが東京に集い交流しながら、プロデューサーの設定するテーマのもと、小作品を共同で制作する。

今年度は、フィリピン、インドネシア、台湾の3カ国・地域の演出家を中心とした3グループが共同制作・成果発表(上演)を行う。

テーマ…雨

公演情報

会場

東京芸術劇場 シアターイースト
東京都豊島区西池袋1-8-1

公演スケジュール

11/13(金) 16:30
11/14(土) 19:00



国際共同制作ワークショップ2014 稲古風景

【APAFアートキャンプ(舞台芸術国際共同制作人材育成事業)】

アジア舞台芸術祭2015の公演に合わせて、未来の舞台芸術界の担い手となる、公募で選ばれた日本・アジアの若手演出家やプロデューサーなどを対象に実施。作品の観劇、ディスカッション、レクチャー、フォーラムなどを通じ、自身のアイデア・問題意識・手法を練り上げ、作り手としての「軸」を築くためのプログラムとする。

実施情報

会場

東京芸術劇場 シアターイースト ほか

実施スケジュール

11/9(月)～11/17(火)(予定)



ラウンドテーブル・ディスカッション APAFアートキャンプ2014

主催 …… アジア舞台芸術祭実行委員会
(構成団体: 東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団、
公益財団法人東京観光財団)、豊島区※

共催 …… フェスティバル/トーキョー実行委員会※

助成 …… 平成27年度 文化庁 文化芸術による地域活性化・
国際発信推進事業(池袋/としま/東京アーツプロジェクト事業)※、
公益財団法人セゾン文化財団※

※APAF アートキャンプ(舞台芸術国際共同制作人材育成事業)

問合せ先 …… 東京都生活文化局文化振興部企画調整課
アジア舞台芸術祭担当

住所 …… 〒163-8001
東京都新宿区西新宿二丁目8番1号

東京都庁第一本庁舎28階北側

TEL …… 03-5388-3150

MAIL …… apaf-tokyo@circus.ocn.ne.jp

URL …… <http://www.butai.asia/>

連携プログラム

首都圏の舞台芸術シーンを広く紹介していく連携プログラム。フェスティバル/トーキョー15開幕直前の2015年9月から会期の11月・12月にわたって、都内および東京近郊で開催される公演の中でも、とりわけ高い現代性と豊かなオリジナリティを持つ国内外の演劇やダンスの13公演・事業が、F/T15連携プログラムとしてフェスティバルに参加する。

STスポット舞台芸術フェスティバル 『ナビゲーションズ』

構成・演出…相模友士郎

「モノ」のナビゲーションによって規定され、振り付けられるわたしたちの身振りを発見する。

観客のまなざしの創造性を引き出しつつ進行するダンス作品『天使論』に続く相模友士郎による最新作。本作は身の回りの日用品を舞台上に引き込みつつ「モノ」と身体との関係性を再構築する。そのプロセスはわたしたちによるわたしたちへの振り付けを発見する場になるだろう。

シアターX カイ プロデュース 日本・イスラエル・ポーランド共同創造 ヴィトカツツイの『母』

原作…スタニスワフ・イグナツイ・ヴィトキエヴィツチ
構成・演出…ルティ・カネル(イスラエル/ポーランド)

ポーランドの前衛的芸術家タデウシュ・カントル生誕100年に因み、そのカントルがインスピライされたヴィトカツツイの作品。

母と息子が“MATKA”という魅惑的な罠のようなプロットに嵌められている。元もと複雑な母子関係がフィアンセを息子が母に会わせるところからますます縋れ、野蛮なグロテスクと暗澹たる絶望の支配する極限的ゾーンへと踏み込んで行く。(10月3日に関連シンポジウムあり。)

『Needles and Opium 針とアヘン ～マイルス・ディヴィスとジャン・コクトーの幻影～』

Ex Machina 作・演出…ロベール・ルバージュ

映像の魔術師ロベール・ルバージュの伝説作が、最新テクノロジーを駆使した新演出により鮮やかに甦る!

「ルバージュ・マジック」と呼ばれる手法を世界に知らしめた記念碑的作品『Needles and Opium』(93年来日)の完全リニューアル版。ジャズの巨匠マイルス・ディヴィスと詩人ジャン・コクトーのイメージを召喚させながら、ある男性の心象風景が幻想的に立ち上がります。

9月25日(金)～9月27日(日)
STスポット

主催

NPO法人STスポット横浜、相模友士郎

お問合せ

STスポット
TEL: 045-325-0411
<http://www.stspot.jp>

10月1日(木)～10月4日(日)
東京・両国 シアターX

主催

シアターX

お問合せ

シアターX(カイ)
TEL: 03-5624-1181
<http://www.theaterx.jp>

10月9日(金)～10月12日(月・祝)
世田谷パブリックシアター

主催

世田谷パブリックシアター
(公益財団法人せたがや文化財団)

お問合せ

世田谷パブリックシアターチケットセンター
TEL: 03-5432-1515
<http://setagaya-pt.jp>

Dance New Air 2016 プレ公演
サイトスペシフィックシリーズvol.1

『distant voices』～青山借景

コンセプト・演出…ハイネ・アヴダル、篠崎由紀子

日常にシームレスに溶け出す、
サイトスペシフィックなダンスパフォーマンス。

日本の伝統的造園技法である〈借景〉の概念を用いた『Borrowed Landscape-Yokohama(横浜借景)』で好評を博したハイネ・アヴダルと篠崎由紀子とヨーロッパと日本のアーティストによる国際共同作品。今秋30周年のスパイナルの空間を舞台に、参加者の知覚や想像力で様々な見方を楽しめる新形式のパフォーマンス。

■ストアハウスコレクション・日韓演劇週間①

『キヨンスク、キヨンスクの父』

コルモツキル(韓国) 作・演出…パク・クニョン

『烈々と燃え散りしあの花かんざしよ』

温泉ドラゴン(日本) 作・演出…シライケイタ

■ストアハウスコレクション・日韓演劇週間②

『アリバイ年代記』

ドリームプレイ 作・演出…キム・ジエヨプ

『黄色い叫び』

中津留章仁LOVERS 作・演出…中津留章仁

私が観たいお芝居、あなたが観たいお芝居を探し続ける
ストアハウスコレクション日韓演劇週間、第3弾!

韓国の現代演劇を代表するパク・クニョンが主宰するコルモツキル、演出家・俳優として活動するシライケイタが作・演出を手掛ける気鋭の若手劇団・温泉ドラゴン、そして韓国・2014年度の賞を総なめにしたキム・ジエヨプ主宰のドリームプレイ、話題作を発表し続ける硬派な中津留章仁が、2週に渡ってバトルを繰り広げる。

10月10日(土)～10月12日(月・祝)
スパイナル

主催

一般社団法人ダンス・ニッポン・アソシエイツ、
株式会社ワコールアートセンター、
NPO法人Offsite Dance Project

お問合せ

スパイナル
TEL: 03-3498-1171
<http://borrowed-landscape.jp>

①10月14日(水)～10月18日(日)

②10月21日(水)～10月25日(日)
上野ストアハウス

主催

ストアハウス

お問合せ
ストアハウス
TEL: 03-5830-3944
<http://www.storehouse.ne.jp>

10月15日(木)～10月23日(金)
東京芸術劇場 プレイハウス

主催

東京芸術劇場
(公益財団法人東京都歴史文化財団)
東京都／アーツカウンシル東京
(公益財団法人東京都歴史文化財団)

お問合せ

東京芸術劇場ボックスオフィス
TEL: 0570-010-296(休館日を除く10～19時)
<http://www.geigeki.jp/t/> (PC)

野村万蔵プロデュース
「伝統芸能in自由学園明日館」vol.1

『獅子の祝彩』

企画・監修…野村万蔵

能楽×明日館×獅子の芸能×デジタル掛け軸
伝統と現代デジタルアートが交錯する、夢幻の一夜

能楽師野村万蔵プロデュースによる伝統芸能をフランク・ロイド・ライト設計の国指定重要文化財である自由学園明日館にて上演。世界的に活躍する長谷川章の「デジタル掛け軸」に染められた自由学園明日館を借景に、能「石橋」ほか多彩な獅子が舞い踊る。アジアを中心とする舞踊面展示も同時開催。

11月2日(月) 18:30
※雨天順延 11月3日(火・祝) 18:30

自由学園明日館 芝庭

主催
公益財団法人としま未来文化財団、豊島区
共催
自由学園明日館

お問合せ
としまみらいチケットセンター
TEL: 03-3590-5321
<http://www.toshima-mirai.jp>

座・高円寺 秋の劇場20 日本劇作家協会プログラム
カムカムミニキーナ二十五周年記念公演第二弾

『>(ダイナリイ)』 ～大稻荷・狐色になるまで入魂～

カムカムミニキーナ 作・演出…松村 武

全方位客席に挑戦する実験冒険演劇「サラウンド・ミニキーナ」シリーズ、旗揚げ25周年を記念して、座・高円寺にて上演!

松村武、八嶋智人らが旗揚げし、今年25周年を迎える劇団カムカムミニキーナ。古代日本神話をベースに、ダイナミックな現代版神話世界を描く。謎の記号「>」を巡り、陰と陽、二匹の狐が紡ぐ、奇奇怪怪なお稻荷様神話。

11月12日(木)～11月22日(日)

座・高円寺1

主催・企画・製作
カムカムミニキーナ

提携
NPO法人劇場創造ネットワーク／座・高円寺
後援
杉並区

お問合せ
カムカムミニキーナ
TEL: 090-6328-1076
<http://www.3297.jp>

吉祥寺シアター10周年記念事業

『タイタス・アンドロニカス』 『女殺油地獄』

劇団山の手事情社

原作…W.シェイクスピア(タイタス・アンドロニカス)、

近松門左衛門(女殺油地獄)

構成・演出…安田雅弘

ヨーロッパで絶賛された『タイタス・アンドロニカス』と
新作『女殺油地獄』。東西の悲劇を同時上演!

東西の古典作品を独自の演技様式で上演。ヨーロッパで上演を重ねた代表作『タイタス・アンドロニカス』。『女殺油地獄』は3年前主宰・安田がルーマニアの国立劇場で演出。それを大幅改訂し、山の手事情社の俳優で挑む新作。世界を覆う「テロ」と「殺意」。

『タイタス・アンドロニカス』
11月6日(金)～11月8日(日)

『女殺油地獄』
11月12日(木)～11月16日(月)

吉祥寺シアター

主催
有限会社アップタウンプロダクション、
劇団山の手事情社

提携
公益財団法人武蔵野文化事業団

お問合せ
劇団山の手事情社
TEL: 03-6410-9056
<http://www.yamanote-j.org>

座・高円寺 秋の劇場21 日本劇作家協会プログラム
『お召し列車』

燐光群 作・演出…坂手洋二

日本の現実と過去を辿る、
坂手洋二+渡辺美佐子コンビの最新作!

昭和から現在まで、国鉄により幾度となく実施された特別列車=「お召し列車」運行の歴史。車輌の中で繰り広げられる出来事。これまで『いとこ同志』『星の息子』といった数々の燐光群・坂手洋二作品に出演してきた渡辺美佐子を客演に迎えた、書き下ろし新作。

11月27日(金)～12月6日(日)
座・高円寺1

主催
燐光群

提携
NPO法人劇場創造ネットワーク／座・高円寺
提携
杉並区

お問合せ
燐光群／(有)グッドフェローズ
TEL: 03-3426-6294
<http://rinkogun.com>

現代能楽集VIII

『道玄坂綺譚』

～三島由紀夫作 近代能楽集「卒塔婆小町」「熊野」より

作・演出…マキノノゾミ 企画・監修…野村萬斎

三島由紀夫×野村萬斎×マキノノゾミ。古典から近代、そして現代へ。
異色のタッグが生み出す「現代能楽集」

世田谷パブリックシアター芸術監督・野村萬斎が、古典の知恵と洗練を現代に還元すべく立ち上げた「現代能楽集」シリーズ。第八弾となる今回はマキノノゾミが初登場。三島由紀夫作「近代能楽集」の二作が換骨奪胎され、一つの現代の物語へと生まれ変わります。出演は平岡祐太、倉科カナ、眞島秀和、一路真輝ほか。

11月8日(日)～11月21日(土)
世田谷パブリックシアター

主催
世田谷パブリックシアター
(公益財団法人せたがや文化財団)

お問合せ
世田谷パブリックシアターチケットセンター
TEL: 03-5432-1515
<http://setagaya-pt.jp>

『われらの血がしようたい』

範宙遊泳 作・演出…山本卓卓

マレーシアやタイでの滞在制作／コラボレーションを経た
範宙遊泳が次に描くのは「インターネット」

ITなどなかった時代、私達は果たしてどんなコミュニケーションをしていたのか。たった数十年前のことであるのに遙か昔のことのように思える。ましてそれが生まれた時から既に日常としてある世代にとってそもそも「ITなどなかった時代」などあるのか。今作は言語を舞台上にプロジェクションする手法をさらに先鋭化し俳優の肉体との拮抗を強調する。また横浜での初演を経て、インドはデリーでの上演を予定している。

12月4日(金)～12月14日(月)
のげシャーレ(横浜にぎわい座 地下2階)

主催
範宙遊泳

共催
急な坂スタジオ

お問合せ
範宙遊泳
TEL: 090-6182-1813
<http://www.hanchuyuei.com>

Sound Live Tokyo 2015
『初期シェーカー聖歌:レコード・アルバムの上演』

ウースター・グループ 演出…ケイト・ヴァルク

ニューヨーク最強の前衛劇団、
レコードを「上演」する異色作で初来日

テクノロジーを用いた重層的な演出のバイオニア、ウースター・グループ待望の初来日公演。キリストの女性としての再来を信じ、男女同権を18世紀から実践、厳格な独身主義と禁欲ゆえ消滅寸前の教派「シェーカー」の聖歌を集めたレコードを異例の簡潔さで「上演」する異色作、音と音楽のフェスティバルで。

12月22日(火) 19:30

12月23日(水・祝)16:00/19:00
スパイラルホール

主催
PARC - 国際舞台芸術交流センター

お問合せ
Sound Live Tokyo
TEL: 03-5724-4660
www.soundlivetokyo.com

■フェスティバル/トーキョー実行委員会

顧問	野村 萬	公益社団法人日本芸能実演家団体協議会 会長、能楽師
	福原義春	株式会社資生堂 名誉会長
名誉実行委員長	高野之夫	豊島区長
実行委員長	荻田 伍	アサヒグループホールディングス株式会社 相談役
副実行委員長	市村作知雄	NPO 法人アートネットワーク・ジャパン 会長
	栗原 章	豊島区文化商工部長
	東澤 昭	公益財団法人としま未来文化財団 常務理事／事務局長
委員	尾崎元規	公益社団法人企業メセナ協議会 理事長、花王株式会社 顧問
	熊倉純子	東京藝術大学音楽学部音楽環境創造科 教授
	斎藤幸博	株式会社資生堂企業文化部長
	鈴木敦子	アサヒビール株式会社経営企画本部社会環境部 部長
	鈴木正美	東京商工会議所豊島支部 会長
	永井多恵子	公益社団法人国際演劇協会日本センター 会長
	小澤弘一	豊島区文化商工部文化デザイン課長
	岸 正人	公益財団法人としま未来文化財団 部長
	蓮池奈緒子	NPO 法人アートネットワーク・ジャパン 理事長
	小島寛大	NPO 法人アートネットワーク・ジャパン 理事
監事	鈴木さよ子	豊島区総務部総務課長
法務アドバイザー	福井健策、北澤尚登(骨董通り法律事務所)	

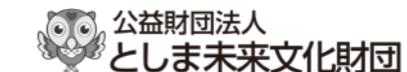
■フェスティバル/トーキョー実行委員会事務局

ディレクターズコミッティ	
代表	市村作知雄
副代表	小島寛大、河合千佳
メンバー	葦原円花、喜友名織江、十万亞紀子、長原理江、横堀広彦
事務局長	葦原円花
制作	小島寛大、河合千佳 喜友名織江、十万亞紀子、荒川真由子、砂川史織、 松嶋瑠奈、松宮俊文、横井貴子、岡崎由実子、三竿文乃
広報・営業	長原理江、横川京子
経理	堤 久美子、谷口美和
総務	平田幸来、蓮池奈緒子、一色壽好
チケットセンター	佐々木由美子、佐藤久美子
技術監督	寅川英司
技術監督アシスタント	河野千鶴
照明コーディネート	佐々木真喜子(株式会社ファクター)
音響コーディネート	相川 晶(有限会社サウンドウイーズ)
アートディレクション	氏家啓雄(有限会社氏家プランニングオフィス)
イラスト	naomi@paris.tokyo
ウェブサイト	竹下雅哉(有限会社氏家プランニングオフィス)
広報協力	湯川裕子
海外広報・翻訳	ウイリアム・アンドリューズ
物販	渡辺 淳
票券	株式会社ヴォートル
執筆・編集	鈴木理映子

開催概要

- 名称 フェスティバル/トーキョー15
- 会期 2015年10月31日(土)–12月6日(日)
- 会場 東京芸術劇場
あうるすぼつと(豊島区立舞台芸術交流センター)
にしづがも創造舎
アサヒ・アートスクエア
彩の国さいたま芸術劇場
池袋西口公園
豊島区 旧第十中学校 ほか
- プログラム数 主催プログラム 12演目・3企画
連携プログラム 13演目
- 主催 フェスティバル/トーキョー実行委員会
豊島区／公益財団法人としま未来文化財団／NPO法人アートネットワーク・ジャパン、
アーツカウンシル東京・東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)
- 共催 公益社団法人国際演劇協会日本センター

- アジアシリーズ共催 独立行政法人国際交流基金アジアセンター
- 協賛 アサヒビール株式会社、株式会社資生堂
- 後援 外務省、公益社団法人日本芸能実演家団体協議会、J-WAVE 81.3 FM
- 特別協力 西武池袋本店、東武百貨店池袋店、東武鉄道株式会社、
株式会社サンシャインシティ、チャコット株式会社
- 協力 東京商工会議所豊島支部、豊島区商店街連合会、豊島区町会連合会、一般社団法人豊島区観光協会、
一般社団法人豊島産業協会、公益社団法人豊島法人会、池袋西口商店街連合会、
特定非営利活動法人ゼファー池袋まちづくり、ホテルメトロポリタン、ホテル グランドシティ、池袋ホテル会
- 宣伝協力 株式会社ポスターハリス・カンパニー
- 平成27年度 文化庁 文化芸術による地域活性化・国際発信推進事業
(池袋/としま/東京アーツプロジェクト事業、としま国際アートフェスティバル事業)



※演目ページのクレジットに記載されているフェスティバル/トーキョーとは
上記主催の略称です

2015年7月15日時点(一部、申請中含む)